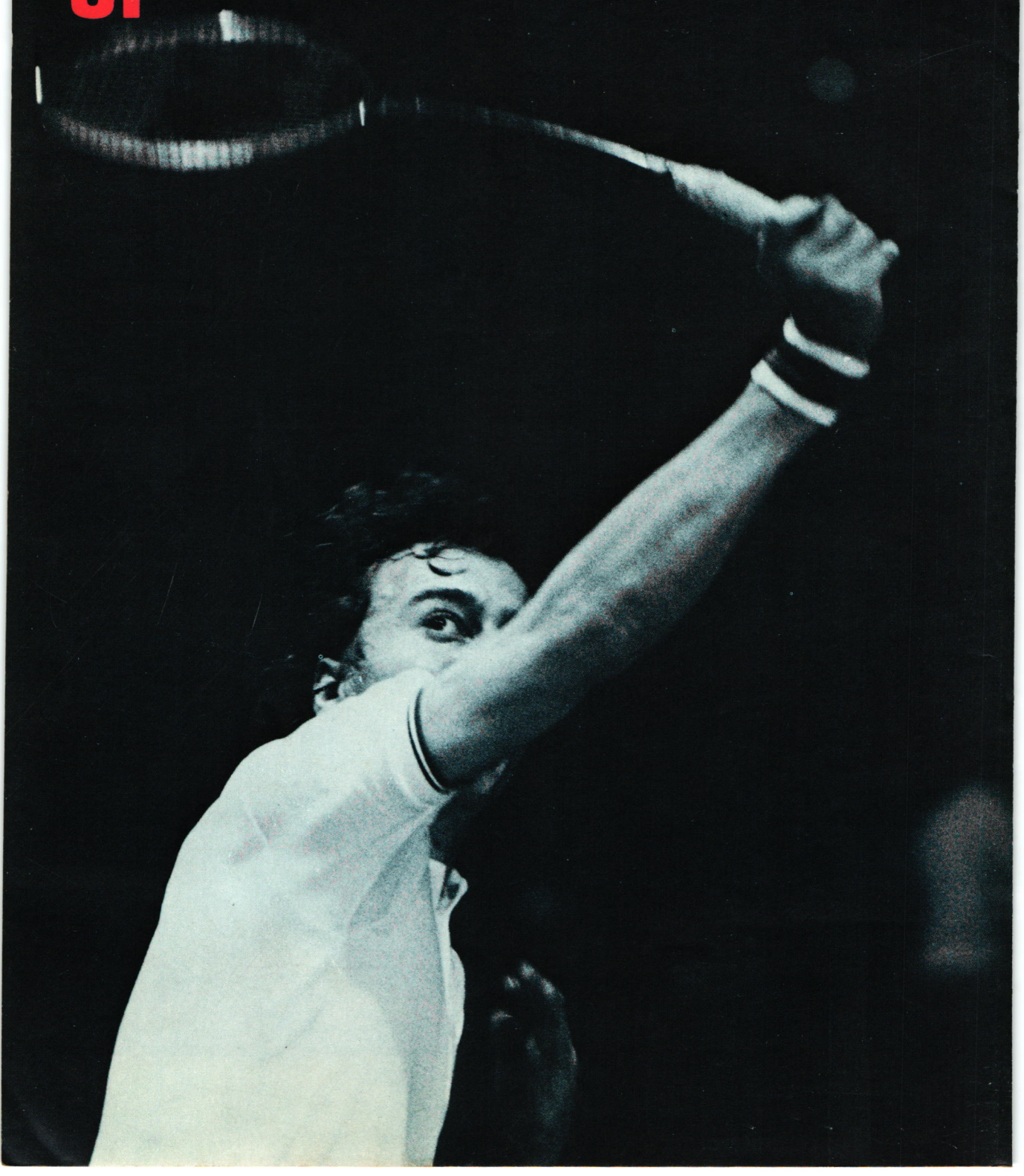
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和49年1月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

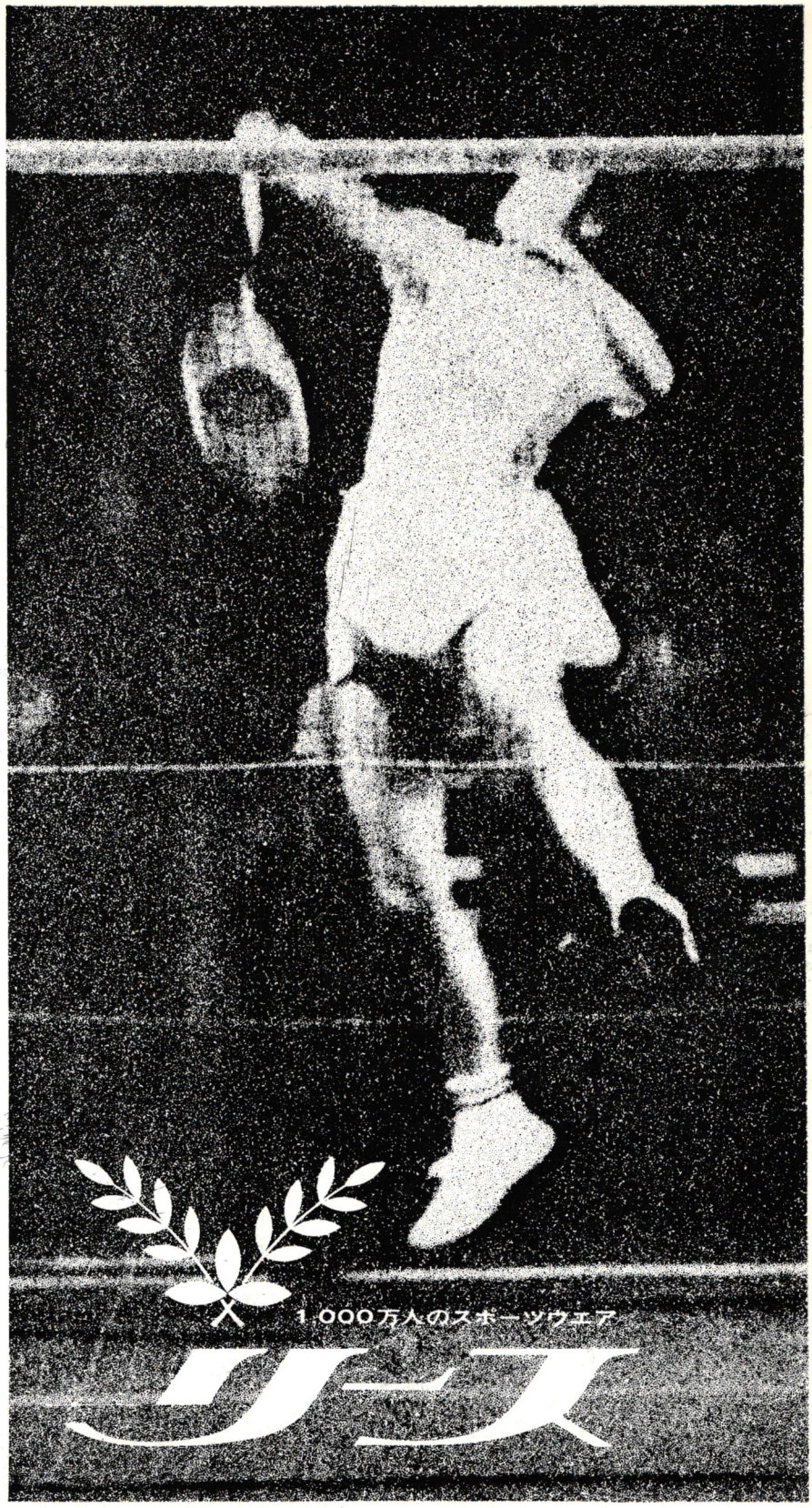
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

51 JANUARY 1974



この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-8844・0453



バドミントン界

〈49年1月号〉

★第三回国際バドミントン競技大会
全日本、初戦に快勝（東京大会）……2
遠藤、デルフスと大熱戦（札幌大会）……4
女子の活躍で日本選抜辛勝（桐生大会）……6
女子1ゲームも与えず、男子は完敗（神戸大会）……8
男子またも完敗（新潟大会）……9
日本6戦全勝で幕を閉じる……10
第三回国際バドミントン競技大会出場選手……12
★全英選手権派遣選手決まる……13
全英選手権大会を展望する……13
★アマチュア界の動き……16
★新連載＝体当たり実戦教室〈第一回〉……30
★特別寄稿＝バドミントン指導について（上）……32
★読者と編集者……34
★協会通信……35
★マスコミのとらえたバドミントン……36
★バックナンバー紹介・次号予告……40

スタッフ／表紙撮影・山田真市／同製作・小浜正道／グラフ写真・連続写真／山田真市／協力・日本協会事務局、各加盟団体、愛読者

特集・第三回国際バドミントン競技大会

第1戦
1月13日
東京

全日本、初戦に快勝——

小島は長身デルフスの強打に苦戦の末勝つ

ヨーロッパの西ドイツ、オランダ、デンマークの三国から男子二、女子四選手を招待しての第三回国際バドミントン競技大会第一戦は、1月13日正午から東京国立競技場代々木第二体育館で行なわれた。

女子シングルスでは、全日本チャンピオンの湯木が、シーボルトを寄せつけず、竹中もボストフに快勝したが、男子シングルスで全日本チャンピオンの小島は、デルフスの長身を利した鋭角度のスマッシュに手こずったがファイナルゲームの熱戦の末降した。

一方ダブルスでは男女ともストレートで快勝した。

全日本5（男2—0 女3—0）0欧州選抜

▽男子

小島 2（15—12 15—6 16—17）1 デルフス

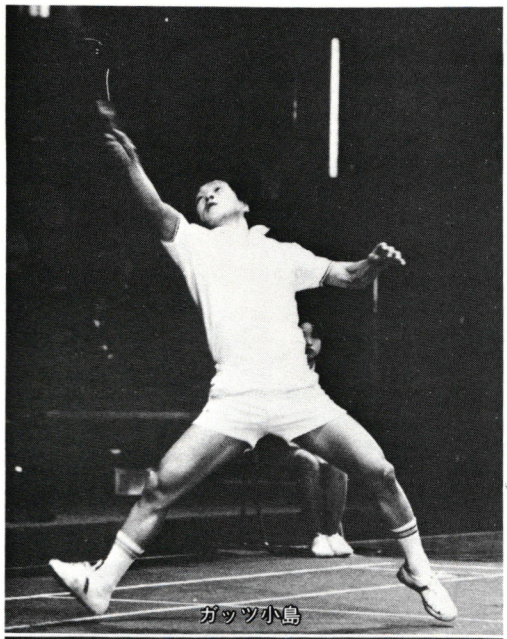
飯土 2（18—16 15—11）0 ハンセン デルフス

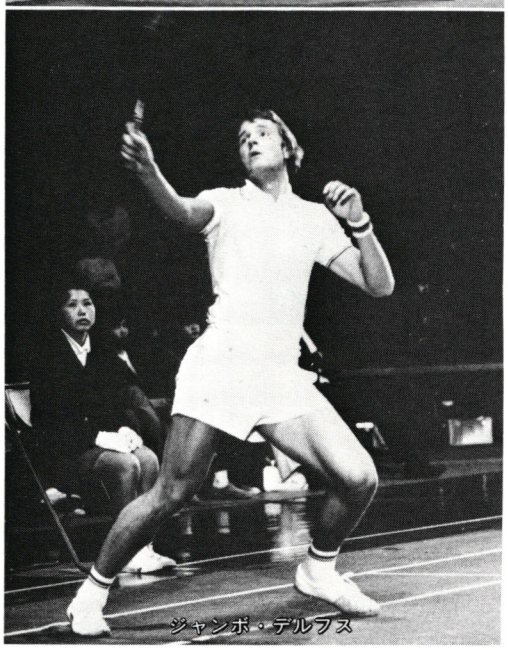
▽女子

湯木 2（11—4 11—5）0 シーボルト

竹中 2（11—7 11—4）0 ボストフ

相沢 2（15—7 15—6）0 ビューセコム リュースケン


ガッツ小島


ジャンボ・デルフス

〔評〕男子シングルスの小島は160センチ、デルフスは190センチ。さすがに小島はやりにくそうで、第1ゲームはデルフスの強烈なスマッシュをけん命に返すが、セッティングの末落とした。

昨年末にスポーツ店を開いた小島は練習不足のため、このまま押し切られるかという不安をなげかけたが、気力でカバーし、残る2ゲームを連取し逆転した。

男子ダブルスも記録的にはストレート勝ちだったが、内容は苦戦の連続。まず第1ゲーム2—11と大きく引き離され、あっさりヨーロッパ先取と思われたが、日本ペアは、うまくネットに持ち込み、たちまち13ポイントを奪取した。

第2ゲームも調子に乗り6—3とリードしたものの、逆転され13—7と苦しい闘いとなった。しかしよくがんばり13—13のセッティングにもつれこみ、勝利をものにした。

来日間もないヨーロッパペアは疲れもあったと思うが、勝負を捨てず粘り勝ちをみせた、飯野・土田組の試合内容はほめられてよいだろう。

女子シングルスはいずれも日本選手の実力が圧倒し、ヨーロッパチームは手も足も出なかったかっこう。しかしダブルスではよく執念をみせ、世界ナンバーワンペアに食い下がった。



ネット前へ突進する相沢・竹中組

愉快なジャンボ・デルフス

「ワー、でかいなあ」デルフスがコートに入ると、スタンドのあちこちから驚きの声があがった。身長1メートル90、体重80キロ。バスケットボールかバレーボールの選手のような体つき。相手の小島が1メートル60と小柄なので長身が一層目立つ。

だが、このシルバーブロンドの巨漢が、ユーモラスなプレーで終始観客を笑わせたのには二度びっくりさせられた。空振りしたと見せかけて、体を一回転して打ったり、ネット際の球をわざと床すれすれまで打たずにいたり、トリックプレーをいろいろと使う。「相手のタイミングを崩す戦法かって？　いや、楽しんでるのさ」自由なムードの町のクラブで育ったせいか、プレーを楽しむことが身についている。

点の取り方、取られ方もいかにも派手で、第一ゲーム17―16で辛勝したかと思うと、第二ゲームは6―15で完敗。最終ゲームも小島の12―4から強打で豪快に追い上げ14―12と迫るなど、観客をハラハラさせ通し。どんなピンチでもニコニコして、劣勢に立っている選手とは思えない。

勝った小島は「ヨーロッパの選手はユーモアがあるから、こっちもリラックスしていいプレーができる。久しぶりにヨーロッパのコートで試合しているようで楽しかった」と満足そう。

日本の競技会に足りないのは〝会場の楽しいムード〟だといわれてきたが、十年ぶりに欧州から来日した大男は、技術以上の貴重なものをおみやげに持ってきたようだ。

（読売新聞から）



飯野・土田組、飯野のプッシュ

1月15日
札幌大会

遠藤、デルフスと大熱戦

田村・高野組は惜しくも敗れる

第三回国際バドミントン競技大会第二戦、札幌大会は1月15日午後4時から、札幌市中央体育館で男子シングルス2、女子ダブルス2、混合ダブルス1の計5試合が行なわれ、4対1で日本選抜が勝ち対戦成績を2勝とした。

日本選抜 4（男2－0、女1－1、混1－0） 1 欧州選抜

▽男子シングルス

遠藤 2（15－12、17－16、12－15） 1 デルフス

小島 2（15－7、15－13） 0 ハンセン

▽女子ダブルス

田村 高野 1（6－15、15－12、7－15） 2 ボストフ シーボルト

相沢 中野 2（15－11、15－8） 0 ビューセコム リュースケン

▽混合ダブルス

梅尾 竹中 2（15－9、15－9） 0 ハンセン ボストフ

〔評〕 男子シングルスで遠藤は地元の声援を受けて健闘した。第1ゲームは12ポイントで惜しくも落としたものの、第2ゲーム14オールのセッティングから16オールのマッチポイントまでせり合ったが、勝負強いところをみせてファイナルに持ち込むと、第3ゲームを逆に12ポイントにデルフスを押えて逆転に成功した。女子ダブルスの田村・高野組はよく健闘したが、ファイナルゲームの末敗れた。

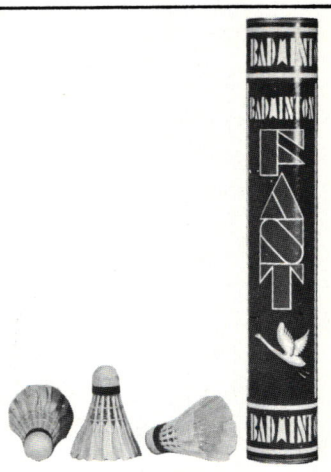


小島のカベを破れなかったハンセン

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

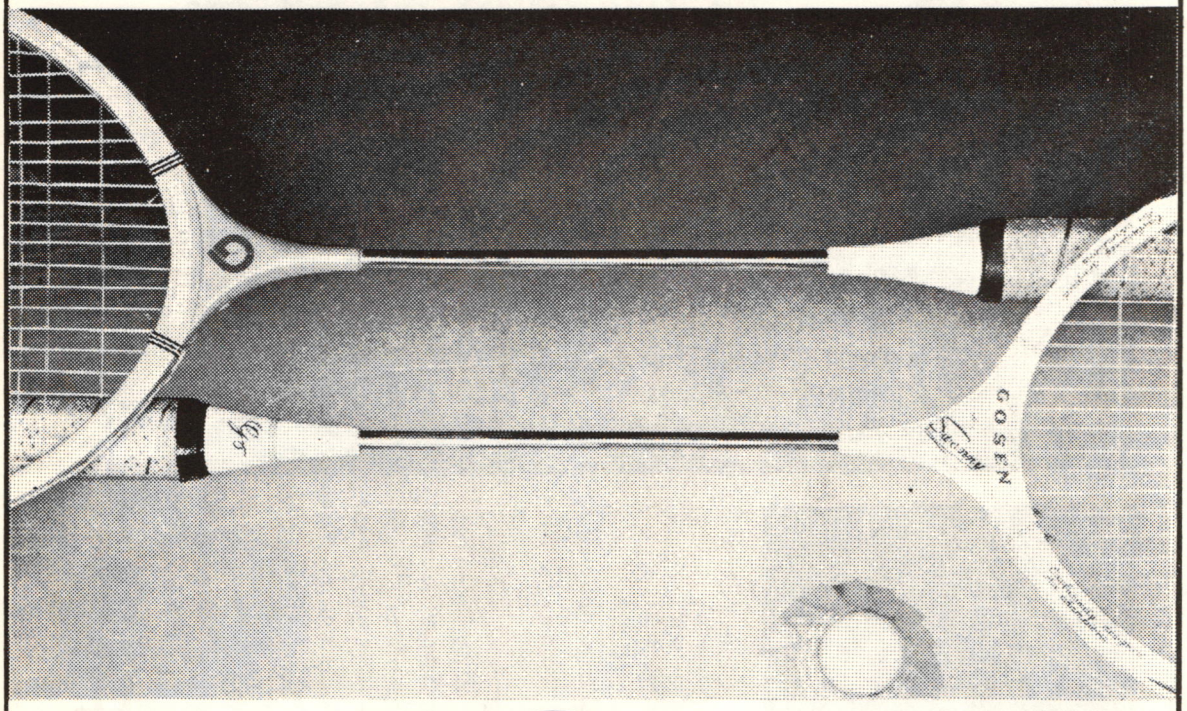
ファストシルバー



ファスト印シャトルコック 製造発売元 有限会社 ジャワ商会

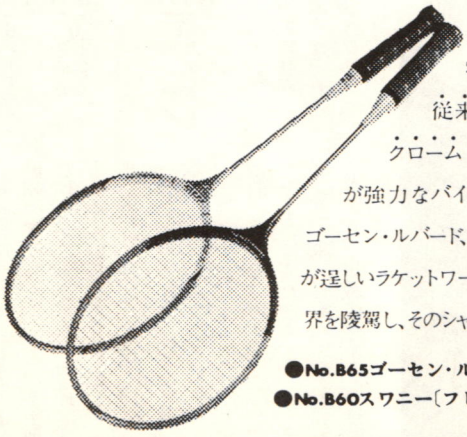
山形市六日町7の28
電話0263(33)0333(代表)

精緻。俊敏。この確かな手応え。
ロング・テーパード・シャフト。



LUBIRD & SWANNY

Gosen Badminton Racket



特殊合板の力強いフレームと、
従来のものよりさらに長くなった
クローム・テーパード・シャフトの強靭性
が強力なバイブレーションを生み出します。
ゴーセン・ルバード、スワニーのロング・シャフトコンビ
が逞しいラケットワークを可能にし、世界のバドミントン
界を陵駕し、そのシャープで逞しい手応えを披露します。

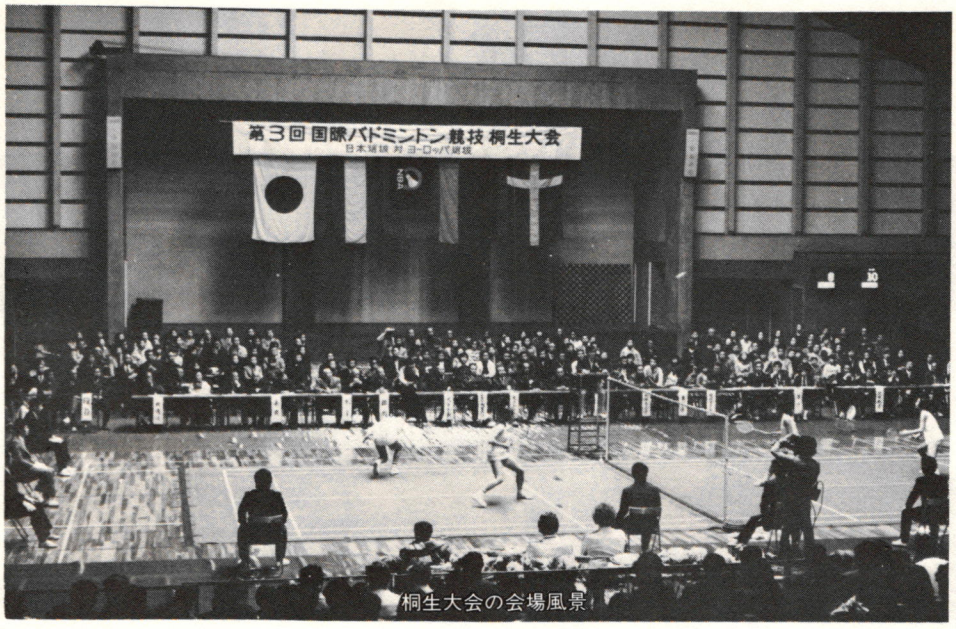
●No.B65ゴーセン・ルバード〔フレーム〕……¥3,800
●No.B60スワニー〔フレーム〕・タオルグリップ付…¥3,800

株式会社ゴーセン
本　　社・大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1　☎(03)862-6576(代)

1月18日
桐生大会

女子の活躍で日本選抜辛勝

井上・今井組善戦するも敗る



桐生大会の会場風景

第三回国際バドミントン競技大会第三戦、桐生大会は1月18日午後5時30分から、群馬県桐生市民体育館で行なわれた。

男女シングルス、同ダブルス各1、混合ダブルス1試合の5試合が行なわれたが、日本選抜は女子2、欧州選抜は男子2試合にそれぞれ勝って、勝負は最後の混合ダブルスに持ち越され、熱戦のすえ、日本ペアが勝利を収め、3－2で辛くも日本選抜が勝ち、欧州選抜は3連敗となった。

日本選抜 3
（男 0－2
女 2－0
混 1－0）
2 欧州選抜

▽男子

梅野尾 0
（5－15
7－15）
2 デルフス

井上 0
（7－15
8－15）
2 ハンセン

▽女子

湯木 2
（11－2
11－1）
0 シーボルト

相沢 2
（15－11
15－12）
0 ビューセコム
リュースケン

▽混合ダブルス

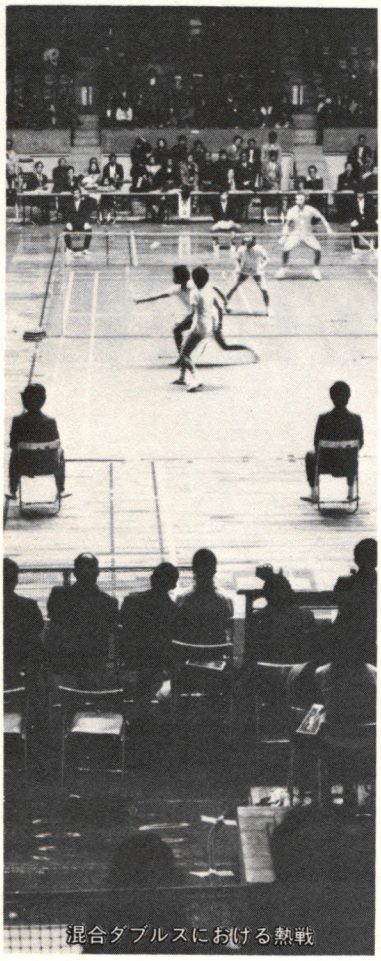
梅野尾 2
（8－15
18－13
18－14）
1 ハンセン
ボストフ

〔評〕 シングルスはハンセン、湯木がそれぞれ一方的に快勝し、ダブルスも日本、欧州がそれぞれ1勝をあげ、混合ダブルスへと勝敗が持ち越された。

混合ダブルス第1ゲームは、欧州ペアの圧勝。ハンセンは強打を浴びせ、まったく日本ペアに反撃のチャンスを与えなかった。

そして第2ゲームも7－4と欧州ペアがリード。このまま押し切るかにみえたが、梅野尾はようやく好打をとりもどし、うまく試合を展開し、13－13のセッティングから5ポイントを連取し、タイに持ちこんだ。

ファイナルゲームも12本まで余断を許さない展開だったが、ハンセンに疲れがみえ、セッティングの末、日本ペアは勝利をもぎとり、対戦成績を3勝無敗とした。

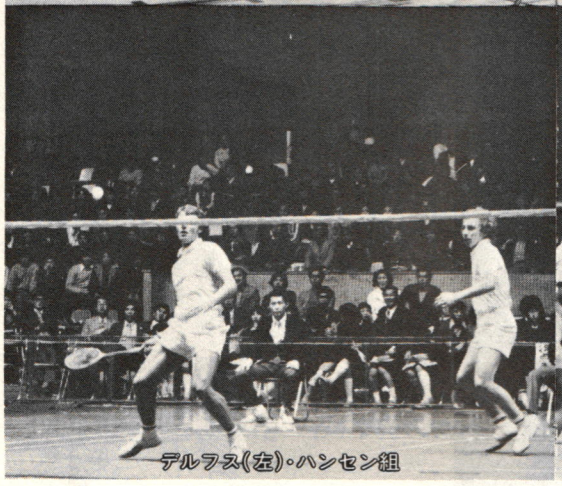

混合ダブルスにおける熱戦



入場するヨーロッパ・チーム



デルフスに苦杯を喫した梶野尾


デルフス(左)・ハンセン組


湯木(左)と対戦するシーボルト

桐生大会こぼればなし

上州名物からっ風にびっくり

桐生到着以来、連日の晴天と群馬特有の寒い北風にコートのエリを立て、〝寒い寒い〟を連発、寒さに強いはずの北欧選手もからっ風には勝てず、プレゼントされたマフラーに首をうずめ、ふるえあがっていた。

木の家にオー・ワンダフル

日本へ着いてビルディングばかり。木造の家を見たいとの希望で百年以上たった家庭へ案内、床の間のついた部屋でこたつに足を投げ出して渋茶をすすり、〝オー・ワンダフル〟。

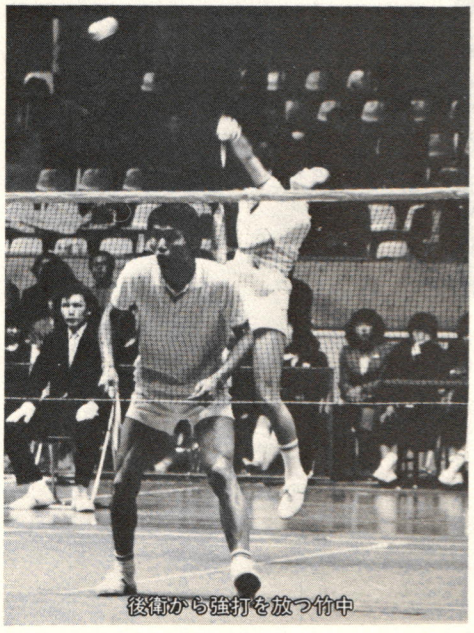
練習、練習

来桐して早速練習をとの希望、転戦で疲れていると考え、休養第一の日程を急拠練習にあてたが、さすがに一流選手、コンディションづくりにけん命だった。

大会の進行を妨げたガット

五試合で二十数回ラケットのガットが無残に切れた。乾燥が激しいうえに暖房のため温度が上がり、最悪の条件で選手たちもギブアップ。ゲームの進行も遅れてしまい、ガットがとんだ罪つくりといったところ。

（増田保夫）


後衛から強打を放つ竹中

1月20日
神戸大会

女子1ゲームも与えず、男子は完敗


バン・ビューセコム


竹中悦子

第三回国際バドミントン競技大会第四戦、神戸大会は1月20日正午から神戸市立中央体育館で7試合が行なわれ、日本選抜は女子の大活躍で5―2と欧州選抜を破った。

日本選抜5（男0―2、女4―0、混1―0）2欧州選抜

▽男子
小島0（3―15、7―15）2デルフス
小島1（15―14、15―17、15―18）2デルフス
梅野尾ハンセン

▽女子
相沢中2（15―7、17―15）0ビューセコム
竹リュースケン

▽混合ダブルス
湯木2（12―10、11―7）0ビューセコム
池田2（11―8、11―7）0リュースケン
高崎尼崎2（18―15、15―10）0ポストフ シーボルト
梅野尾中2（15―12、15―8）0ハンセン ポストフ

〔評〕男子は小島の不調がひびき、星をあげることができなかった。シングルスで小島はデルフスの強打を浴び、またトリッキーなプレーにほんろうされ、ストレートで完敗した。

また、ダブルスも日本男子はファイナルゲームの大接戦の末敗れた。

しかし、女子が大活躍し、湯木がビューセコムの粘りにあって多少苦戦したものの、相沢・竹中、池田は相手を寄せつけずに完勝した。

地元の期待をになって登場した高崎・尼崎のペアはよく頑張り、第2ゲームセッティングとなったものの要所をしめ、ストレート勝ちした。

これで日本は土つかずの4連勝となった。

1月24日
新潟大会

男子またも完敗、女子の大活躍で敗戦は免れる

第三回国際バドミントン競技大会第五戦、新潟大会は1月24日午後5時40分から新潟市体育館で男女5試合が行なわれた。

この日、日本選抜は地元出身選手を中心にオーダーを組んで試合に臨んだのに対し、欧州選抜も底力をみせて男子で2勝をあげたが、女子の活躍で日本は五連勝をはたした。

日本選抜 3 (男 0－2, 女 3－0) 2 欧州選抜

▽男子

今泉・本間 1 (15－10, 10－15, 13－15) 2 デルフス・ハンセン

本間・今泉 0 (7－15, 15－13, 15－13) 2 デルフス・ハンセン

▽女子

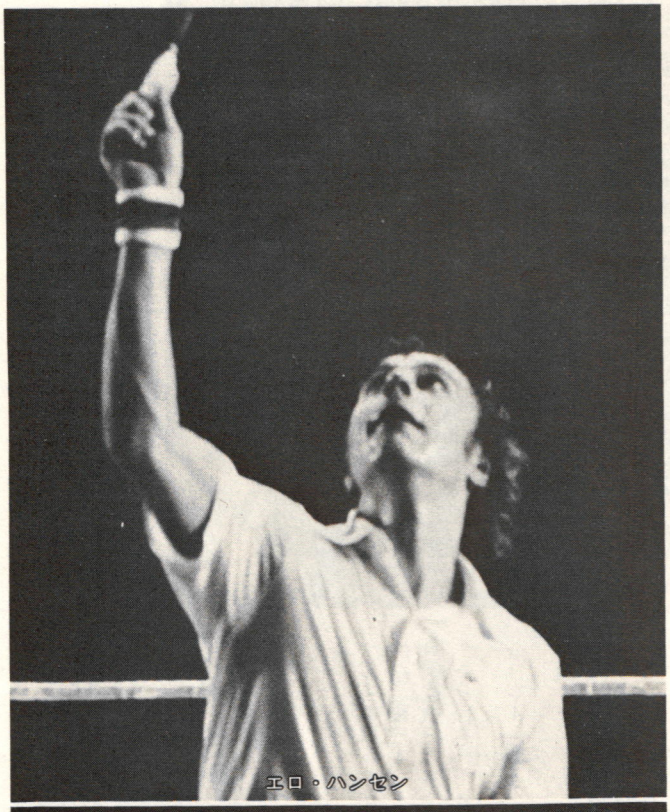
堀江・竹沢 2 (18－15, 15－10) 0 ボストフ・シーボルト

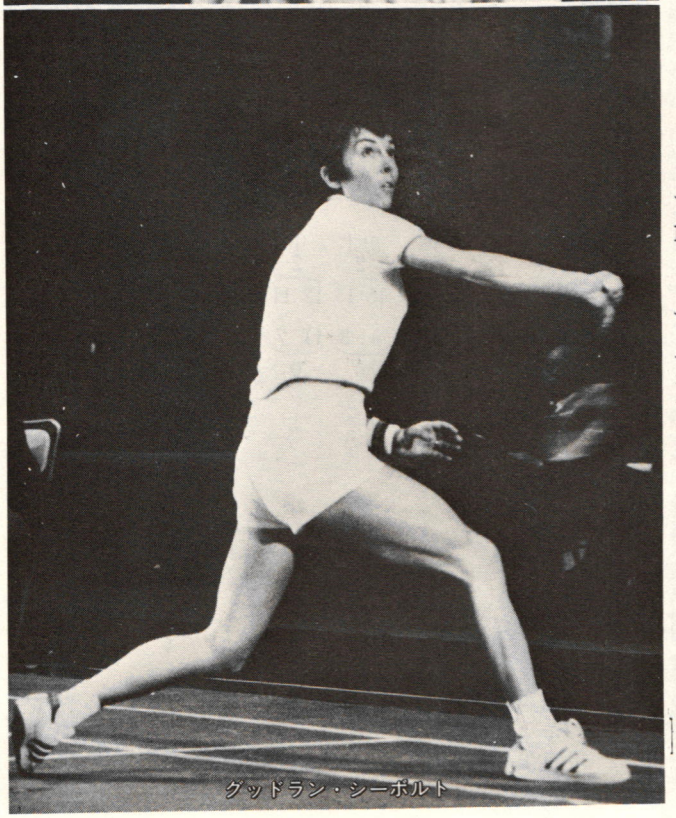
竹沢・堀江 2 (15－3, 15－3) 0 ビューセコム・リュースケン

竹沢・堀江 2 (5－11, 11－3, 11－3) 1 シーボルト・ボストフ

〔評〕この日最大の好ゲームは予想どおり男子ダブルスとなった。たたきつけるようにスマッシュを打ってくる欧州ペアに対して、日本ペアはよく動き丁寧に返球していった。

第1ゲーム日本ペアがとったものの第2ゲームを失ないタイに持ち込まれ、ファイナルゲームも14－4とマッチポイントを欧州ペアがとり、あっさりと勝負あったかに思われたが、日本ペアはあきらめずジワジワとばん回していった。そして14－13と1本差に迫り、セッティングにもちこむかと場内は白熱した試合に盛んな声援がとんだ。しかし、欧州ペアはよくもちこたえてこの試合をものにした。


エロ・ハンセン


グッドラン・シーボルト

最終戦
1月27日
東京

日本6戦全勝で幕を閉じる

銭谷はハンセンに苦杯
女子は全勝を飾る


エキジビションで出場の梅野尾・相沢組

第三回国際バドミントン競技大会最終戦は、1月27日午後2時から東京国立競技場代々木第二体育館で行なわれた。

男子シングルスで銭谷がハンセンに敗れ、特別試合の混合ダブルスも敗れたが、女子の圧倒的な活躍で4－1と勝利を飾り、対戦成績を土つかずの6戦全勝で全日程を終了した。

全日本 4（男1－1女3－0）1 欧州選抜

▽男子

銭谷 1（12－15 11－15 18－16）2 ハンセン

▽女子

池田 梅野尾 2（15－2 7－15 1－0）1 棄権 ハンセン

竹中 2（12－11 11－7）0 ビューセコム

湯木 池田 2（15－3 15－9）0 シーボルト ボストフ

相沢 竹中 2（15－15 8－15 15－12）1 ビューセコム リュースケン

▽特別試合

梅野尾 相沢 0（7－15 10－15）2 デルフス リュースケン

〔評〕男子シングルスの銭谷は、若手らしく思い切り真正面から攻め、ハンセンの技巧的プレーに対抗した。

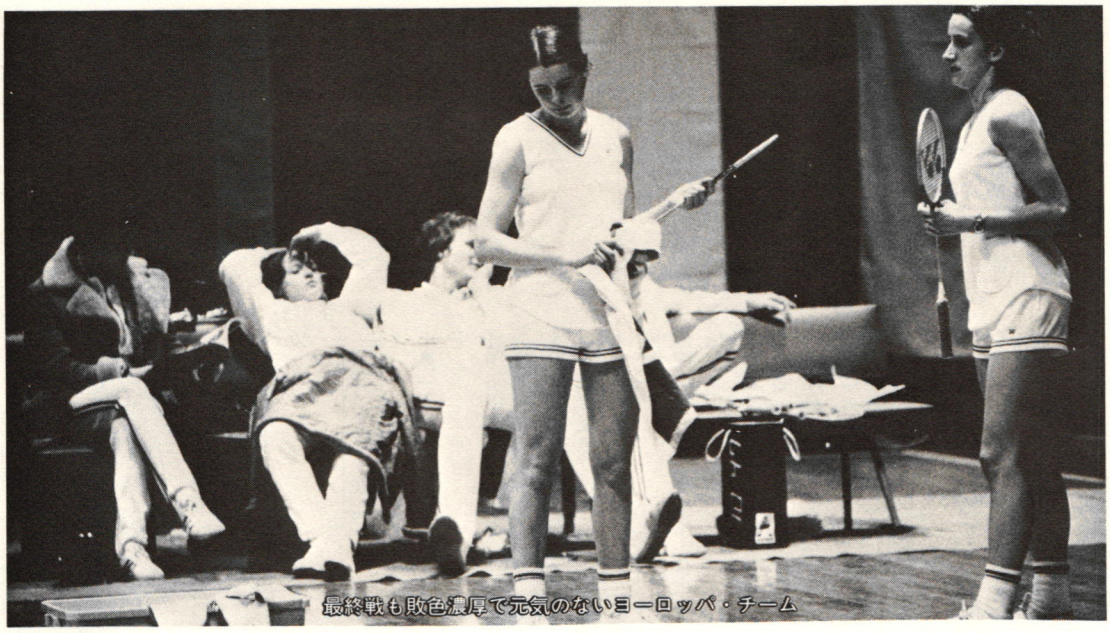
第1ゲームは13－10からセッティングに持ち込まれ苦戦したが、18－16と押し切った。

第2、第3ゲームもよく健闘したがハンセンに終始先手をとられ、勝利を逸した。

女子はいずれも勝利をおさめたが、シングルスで竹中は、バックに深くきたクリアを返そうとして足をとられ転倒、場内をヒヤリとさせた。しかし大事にいたらず、ビューセコムに追い上げられたが2－0で降した。



寒風の中で入場を待つファン



最終戦も敗色濃厚で元気のないヨーロッパ・チーム

全敗にも闘志満々、キャプテン・ヨーコ

混成チームの欧州選抜を、大会期間中二週間にわたってうまくまとめたのは、二十二歳の最年少で来日二度目の人気者「ヨーコちゃん」ことヨーケ・バン・ビューセコム。リュースケンと組んだダブルスで、全英選手権二連勝の相沢、竹中組に挑戦するのが今大会の〝看板〟だったが、六回やって全敗。「シングルスもやらせて……」とたのんだ末の相手が、神戸大会の湯木と、この日の竹中だったので、これも敗れて八戦全敗。

ところが、しょげているかと思ったら大間違い。「大切なことはいい試合をすることよ。全力で戦ったから満足」と、サッパリしている。昨年はじめて来日したとき、その愛きょうたっぷりなふる舞いと、大柄な体に食い込むようなホットパンツで人気者になり「世界一になるため就職もあきらめ、プロコーチについて修業中」と大きなことをいっていたが、今年は会社の秘書に就職、ひとまわりやせておとなっぽくなった。

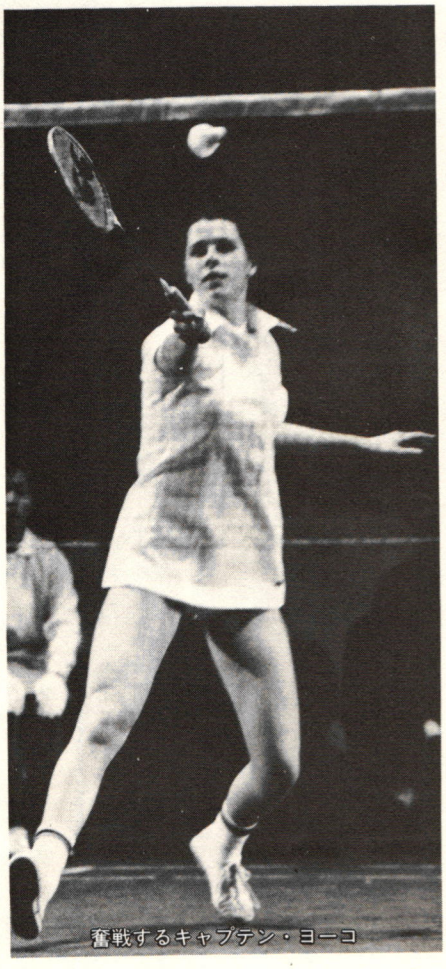
「やせたのは仕事のせいじゃなく、トレーニングをしたからよ」——だから動きがよくなったでしょう、といいたそうな顔つきだ。

相沢、竹中組と六回にわたる対戦で、一つの結論が出た。個人の世界選手権といわれる全英選手権（三月）で、三十八年ぶり史上二度目の三連勝をねらう相沢、竹中にとって「強い相手はこれでイギリスのギルクス、ベック組だけになった」ということだ。

だが相沢、竹中はこの楽観論をはっきり否定する。「ダメダメそんな見方は。ヨーロッパの選手は、タイトルがかかった試合になると急に力を出すんです」。

ニコニコしながら八連敗して帰国するキャプテン・ヨーコちゃん。本当は底力を隠しているのかもしれない。

（読売新聞から）



奮戦するキャプテン・ヨーコ

第3回国際バドミントン競技大会出場選手

ヨーロッパ選抜・全日本・日本選抜

ヨーロッパ選抜チーム

フレミング・デルフス デンマーク　22才
1973年デンマーク選手権　単2位

エロ・ハンセン デンマーク　27才
1973年デンマーク選手権　単3位
1973年全英選手権　単ベスト8　同複ベスト8

ロニー・ボストフ デンマーク　28才
1969年デンマーク選手権　単1位
1973年全英選手　単3回戦で竹中に敗退

ヨーケ・バン・ビューセコム オランダ　22才
1973年デンマーク選手権　複1位　同単ベスト8
1973年全英選手権　準々決勝で湯木に敗れ、ベスト8

マーヤン・リュースケン オランダ　21才
1973年デンマーク選手権　複1位

グッドラン・シーボルト 西ドイツ　26才
1973年西ドイツランキング　単3位
1973年全英選手権　3回戦で湯木に敗退
1969年オランダ国際　複1位

全日本チーム

小島一平 中央大学出・ラケットショップ元町
1966～70、72～73年全日本総合　単1位
1967～69、72年全日本総合　複1位
1968年全英選手権　単3位　同複3位

池田信孝 法政大学出・日本電信電話公社
1971、73年全日本総合　複1位

栂野尾昌一 法政大学出・ヨネックス・スポーツ
1971年全日本総合　単1位
1970、73年全日本総合　複1位
1973年全日本総合　混合複1位

銭谷欽治 中央大学
1973年全日本総合　単2位
1973年全日本学生　単1位

飯野佳孝 日本大学
1973年全日本総合　複2位
1973年全日本学生　複1位

土田証雄 日本大学
1973年全日本総合　複2位
1973年全日本学生　複1位

湯木博恵 日本女子体育大学出　河崎ラケット工業
1968、72、73年　全日本総合　単1位
1971年全日本総合　複1位
1973年全日本総合　複2位
1969年全英選手権　単1位
1972年全英選手権　複1位

竹中悦子 新潟青陵女子短大出　ヨネックス・スポーツ
1970年全日本総合　単1位
1968～70、72～73年全日本総合　複1位
1973年全日本総合　混合複1位
1970年全英選手権　単1位
1972～73年　同複1位

相沢マチ子 新潟青陵女子短大出・ヨネックス・スポーツ
1968～70、72～73年全日本総合　複1位
1973年全日本総合　混合複2位
1972～73年全英選手権　複1位

池田美加 日本女子体育大学
1972年全日本総合　単3位　同複2位
1973年全日本総合　複2位
1973年全日本学生　複1位

日本選抜チーム

井上英夫 日本大学出・日本ルフト株式会社　群馬県国体選手（8年連続）

本間順次 中央大学出・トヨタ自動車工業
1968～69年全日本総合　単2位　70～71年同単3位　72年同単2位　73年同複3位

今泉勉 中央大学出・高岡市役所
1971年全日本総合　複2位　72年同単3位　同複2位　73年同複3位

今井勇司 日本体育大学出・群馬県立渋川女子高教諭

遠藤好男 日本大学出・日本電信電話公社北海道電気通信部
1972年全日本学生　単1位

田村静子 札幌静修短期大学出　地崎工業
1970～73年全道選手権　単1位
1971～73年全道選手権　複1位

高野美千子 江別高校出・地崎商事
1970～73年全道選手権　単2位
1970～72年全道選手権　複2位　73年同複1位

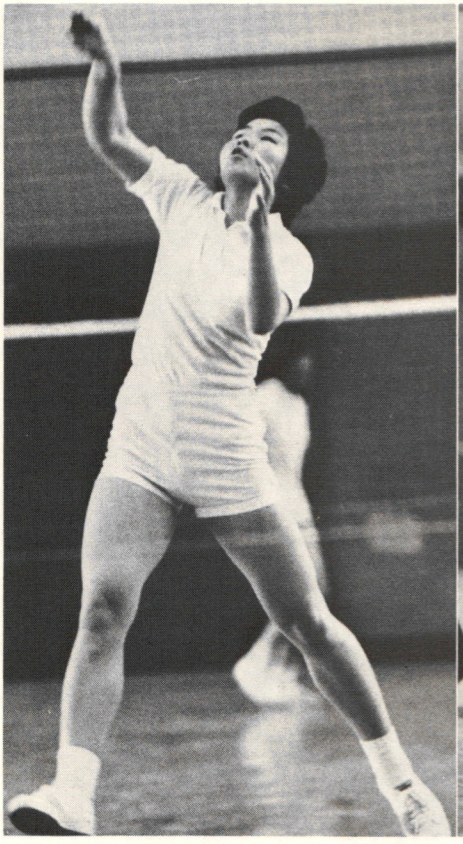
高崎弘子 東大阪短期大学出・三菱電機伊丹製作所
1972年全日本社会人　単ベスト8　同複3位

堀川栄美子 日本体育大学出・新潟青陵高校教諭
1972年全日本総合　単3位

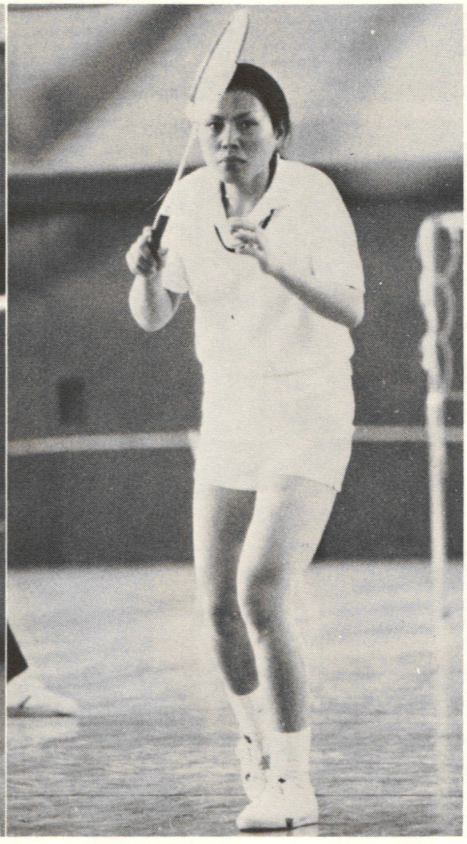


全英選手権派遣選手決まる

湯木・相沢・竹中・池田
池田・栂野尾・銭谷



池田美加（河崎ラケット工業）　22才
1973年　全日本ダブルス第2位



湯木博恵（河崎ラケット工業）　25才
1973年　全日本シングルス第1位
同　ダブルス　第2位

相沢・竹中の3連勝なるか――注目の第六十四回全英選手権大会が、三月二十日から四日間ロンドン郊外ウェンブレー・スタジアムで開かれる。個人種目で事実上の〝世界一〟を決めるこの大会に、日本バドミントン協会は、別記のように、男女計7人の選手を送った。一行は三月八日、空路出発〝前哨戦〟にあたる全デンマーク選手権大会（三月十一日―十三日、コペンハーゲン）グラスゴー招待競技会（三月十五―十六日、英グラスゴー）を経て〝本番〟に臨む。昨年、二度にわたる日中対抗戦で手痛いダメージを受けた日本のバドミントン。一方、欧州勢の力が、年々、上がっているだけに、厳しい試練の場となりそうだ。近い将来、中国をも乗り越えて、文字通りの〝王国〟を築くための第一歩が今度の欧州遠征。大いにがんばってほしいものだ。期待の女子ダブルスを中心に、日本勢の戦いを展望してみた。

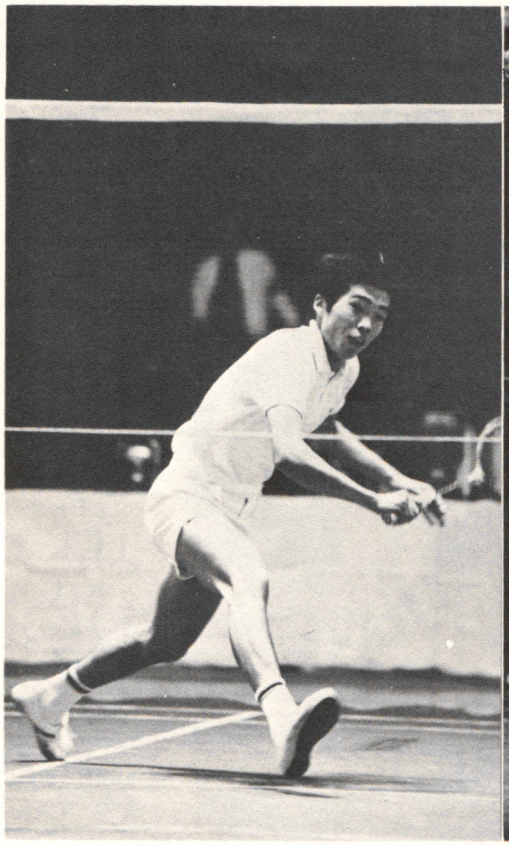
（後藤忠弘）

今回の遠征で、最大の期待はなんといっても相沢・竹中のダブルス。全英選手権の長い歴史の中では、優勝回数が五回、六回という名選手は決して少なくないし、種目によっては連勝記録でも同様のものがある。

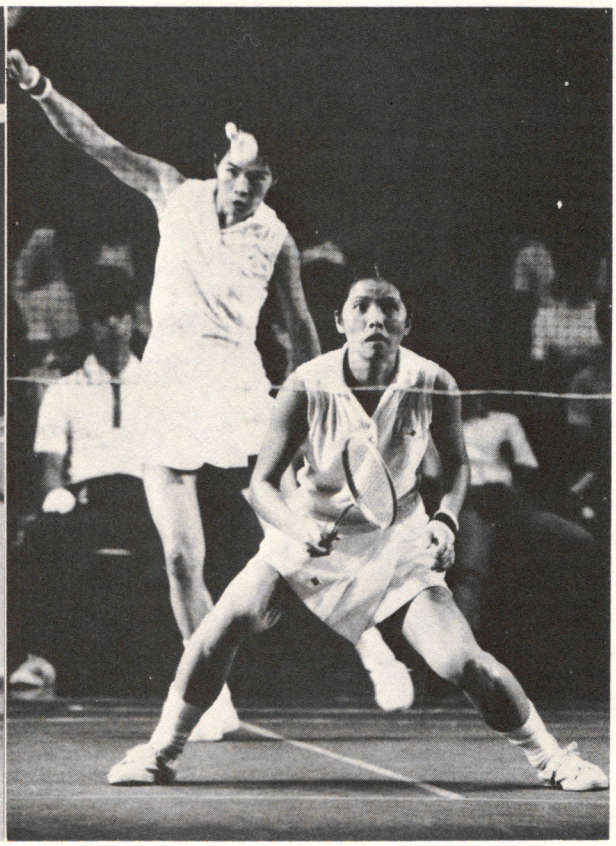
しかし、女子ダブルスでの3連勝は、未だ記録されていない。ご承知のハシュマン夫人（米＝現在、英国市民権）は未婚時代と合わせ一九六〇年から4連勝しているが、3連勝目の一九六二年はパートナーが別。従って〝同一ペア3連勝〟は、もし相沢・竹中組が実現すれば、史上初の快挙となる。

では、その可能性は？　一にかかって〝自分自身〟という敵に勝つかどうか、だろう。

このペアは昨年、フル・ゲームの末、M・ベック、M・A・ギルクス組（英）を破り全英2連勝、全日本でも楽に王座を守った。しかし、73年のスタートであった対欧州選抜では不調に



銭谷欣治（中央大学）　21才
1973年　全日本シングルス第2位



竹中悦子（ヨネックススポーツ）　23才
1973年　全日本ダブルス第1位
同　シングルス第2位
同　混合ダブルス第1位

相沢マチ子（ヨネックススポーツ）　23才
1973年　全日本ダブルス第1位
同　混合ダブルス第2位

あえぎ2勝3敗。日中交流でも〝世界一〟の金看板を降ろさなければならないほどだった。

その理由の一つは、二人とも過去に大きい故障をしたことから来る、体調の不安定。これがために、昨年の欧州遠征でも、全デンマーク戦では二回戦で敗退、全英に先立つエジンバラ招待でも、ベック、ギルクス組に第2ゲーム、1点しかとれず最悪の状態だった。

二人のバドミントンは、ひと口にいって、コンビネーションが身上。それだけに、体調不良は、手痛いタイミングの遅れとなって、試合に現れてしまう。

ベック、ギルクス組は73年1月、中国勢を迎え、陳玉娘・丘玉芳組に4連勝した。その高さとスピードが、前・中陣で相手を圧倒したのだった。相沢・竹中は、その強豪ペアに、エジンバラ招待で敗退しながら、わずか4日後に始まった全英で、みごと雪辱したのである。

相沢・竹中組に関しては「技術的に行きづまり」「限界が見えてきた」などの声が、この一、二年、聞かれるようになっているが、かりにそうであっても現在の力がフルに発揮できれば再びベック、ギルクス組を制することは難しくない。

ただ、次の点は、一応、知っておいてよい。即ち、前年の全英で、女子ダブルス決勝は、女子シングル決勝と同じ日に行われた。ベック、ギルクスはシングルスで同士打ちの決勝をやった後で、相沢・竹中組と対戦したこと。

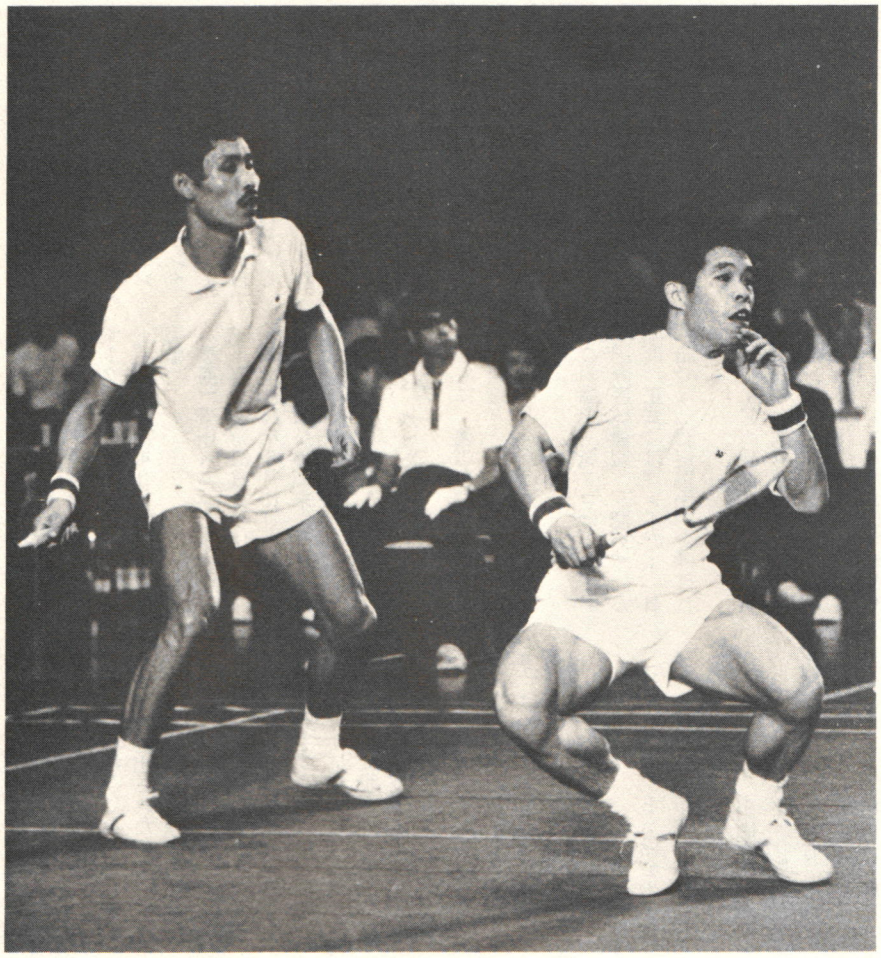
もう一つ、昨年の対欧州選抜で3敗した時の相手ペアはギルクスかバンビューセコム（オランダ）という長身選手が、軸になっていたこと。

〝より高く〟〝より速く〟そして〝より前で〟プレーするのがバドミントン競技の鉄則。より高く、の点で、日本勢は身長差からして、ハンデを背負っている。従って、その分だけ、より速く、より前で、シャトルを処理しなければならなくなるのだが、もし、体調が万全でない時は、カバーし切れない。対欧州選抜戦は、その実例だった。

相沢・竹中のダブルスは〝クサビ型〟陣形への、いわゆるイン・アンド・アウトの流れ込みが、スムーズにいっている時が最も好調な証拠。これを維持できなくなった時、しかも、その原因が相沢にある場合は、前陣の大堤防が崩されてしまう。

万全の体調と気力で戦いに臨むことを期待したい。

女子のシングルスはどうか。



池田信孝（日本電信電話公社）27才
1973年　全日本ダブルス第1位
栂野尾昌一（ヨネックススポーツ）26才
1973年　全日本ダブルス第1位
同　シングルス第3位
同　混合ダブルス第1位

これは、ダブルスの場合より敵が多い。ベック（昨年全英の準々決勝で竹中を降す）ギルクス（同準決勝で湯木に勝つ）以外にも、以前、来日しておなじみのツェドベリ（スウェーデン）コーペン（デンマーク）も要警戒だし、アジアの一勢力インドネシアから、どんな新しい選手が出てくるかもしれない。

湯木は一九六九年、日本人で初めて〝世界タイトル〟をとり竹中も七〇年に〝女王〟となった経験の持ち主。竹中はまずダブルスに全力投球しなければならないし、同士打ちとなった場合も、これまで湯木には分が悪い。ここは昨年、あと一歩で二度目の栄冠を逃がした湯木にがんばってもらいたいところ。

ただ、湯木はご存知の通り、ゲームなかばまで一気に先行しながら、ぱったりエンジンが止まって逆転されそうになったりスタートが悪く、離されてしまうとヤケになって、追いつくのをあきらめたりする例が多い。非常にオーソドックスなタイプのプレーヤーだけに、最初のストロークが乱れると命取り。やはり〝精神のスタミナ〟に充電を心掛けてほしい。

男子は日本の難敵ぞろい。シングルスはハルトノ（インドネシア）の7連勝、ダブルスは同じくインドネシア同士のチュンチュン、ワジュディ組、クリスチャン、チャンドラ組の争いとみるのが順当だろう。

しかし、そのほかにも、プリ、デルフス、ハンセン（以上デンマーク）英国、マレーシア、タイ、スウェーデン勢と、いずれも国際レベルの選手がそろっている。

昨年の日本勢は、全英でいずれも3回戦どまりで欧州選手に敗れ去った。高さ、パワー、スピード、いずれをとっても、日本が克服し、乗り越えなければならない壁である。

今日の遠征は第二回の日中対抗、そして次期ユ杯、トム杯めざして、新しい戦力を育て、チームを作っていく、長期展望の下で行われる。その意味で、全選手にかけられた期待は決して小さくない。

男子の池田・栂野尾のペアがどこまで通じ、なにを課題として持ち帰るか、遠征二度目の銭谷が、シングルス・プレーヤーとして成長するメドはどうか。女子でも初参加の池田が単複にわたって、どのような戦いができるのか。興味はつきない。

第7回ユーバー杯組合せ決まる
開催地はインドネシア

第七回ユーバー杯女子世界選手権の組み合わせが、次のように決まった。第七回大会は74年から75年にまたがるもので、いわゆる本大会（インターゾーン）は75年5月～6月に、インドネシアで開かれる。世界4地区代表、開催国インドネシア、選手権国・日本は、インターゾーンから参加する。従って、インターゾーン出場国は、これまでより開催国がふえ、六ヵ国で争われることになる。インターゾーン組合わせは、74年7月2日のIBF総会で決まる。

▽予選組合わせ

〔アジア〕インド＝出場1ヵ国不戦勝でインターゾーンへ。

〔欧州〕A＝スコットランド×西独、B＝オランダ×スウェーデン。準決勝＝Aの勝者×デンマーク、Bの勝者×イングランド。（決勝は75年3月31日までに実施）

〔豪亜〕豪州×ニュージーランド（74年10月31日までに実施）

〔米州〕74年6月15日申し込み締め切りのため、未定。

日本のテニス界にも
認定制度ができるか

人気上昇中の庭球界にプロは数多いが、この春から日本にも日本庭球協会が統括するプロ制度が誕生することになった。日本庭球協会は、もちろん、アマチュア選手を対象とした協会だから、新制度発足に伴い、アマとプロの両方を統括する団体に衣更えすることになる。もっとも、その場合は、日本体育協会（日体協）のアマ規定から見て日本庭球協会が、日体協に加盟していることはできなくなると思われるが、目下のところ、双方ともに、適当な便法を講じて〝脱退騒ぎ〟などにエスカレートすることを避けたいハラのようだ。

この協会所属プロはILTF（国際庭球連盟）が認めている制度。正式にはプレーヤー、日本語では〝認定選手〟と呼ばれている。

ILTFの規則によると、世界中のテニス選手は①アマ②プレーヤー③ツーリング・プロの3種に分かれている。

ツーリング・プロ即ち巡回興行をして歩くプロで、ふつうは随時、興行師と契約して試合を行い、賞金をかせぐ。いま、国際試合のほとんどは〝オープン制〟で、プロの参加を許し、賞金を出している。

しかし、プロが興行師と長期契約したり、より賞金の多い試合の方に流れたりすると、全英全米といった、伝統と権威のある大会も骨抜きになってしまう。そこで考え出されたのが、プロを協会に所属（登録）させるシステム。

これだと、プロだからといって、自分の好きな試合に出たり宣伝活動をするわけにいかず、協会の指示に従わなければならない。すでに世界の主要国ではみな、この制度を実施している。テニスで世界最高のカード、デ杯には、プロ選手も出られることになっているが、ここでいうプロは〝プレーヤー〟のことを指している。

一部の新聞報道では、このプレーヤーを〝アマでありながら賞金のとれる選手〟と紹介しているが、テニス界がいくらプロ化していても、それほどバカではない。プレーヤーは、かりに百歩譲って、プロでない、としても、ノンアマ（アマでない）存在だ。従って、国体やアジア大会などには出られない。

これまで日本の庭球選手は、海外に遠征してオープン大会に出ても、賞金をもらえなかった。いや、受け取って、旅費、諸経費を精算、余りを協会に納入していた。必ずしも、もうかった？選手ばかりではないだろうが日本協会には数百万円が入っているという。

プレーヤーズ制度が出来ればこうした矛盾？もなくなるわけだ。

★　★　★

中国いよいよアジア大会へ
IFは難色示す……

日本バドミントン協会の高倉副理事長が二月下旬、体操、バレー、レスリング、重量挙げの代表とともに、中国訪問に旅立った。中国のIF（国際競技連盟）復帰問題を話し合うためである。

九月、イランの首都テヘランで開かれる第七回アジア競技大会に、中国が参加できることになった。しかし、まだ、いろんな問題が残っている。

アジア大会を主催するのはAGF（アジア競技連盟）だが、実際に競技の運営、主管に当たるのは、各競技のIFである。IFのルールには、いろいろあるが、非加盟国との交流を禁じているところが多い。違反すれば、参加国は処罰を受け、場合によっては、除名される恐れもある。

そこに中国が参加するアジア大会の難しさがある。中国がIFに加盟している競技は、アジア大会実施種目のうち、卓球、バレーぐらいである。早く加盟すればいいではないか、といっても、中国が主張している加盟の条件は「その競技からの台湾の除名」である。これは、どこのIFでも「OK」といわない。

中国の論拠は「台湾は中国を代表していない。中国を代表するスポーツ組織は、北京の中華全国体育総会である」というものだ。しかし、どこのIFでも「台湾は、加盟の条件を満たしており、追放する理由はない」と反論している。

実際、スポーツ競技の国際組織への加盟資格は、必ずしも一国の単位ではなく、一定地域をコントロールしている組織であればよい。香港などが一つの実例である。IFがいうことにも論拠はある。

バドミントンでも、昨年のIBF（国際バドミントン連盟）の会議で、日本など数ヵ国代表

が、中国を加盟させる提案をしたが、否決されてしまった。アジア大会まで、あと半年。なんとかしたい、ということで高倉氏らが訪中したわけ。果してどんな成果を得られるだろうか。

非加盟国（この場合は中国）との試合を禁じているIFの中で、最も厳しいことをいっているのは陸上、水泳である。これらの競技では二国間の試合（例えば日本と中国の対戦）も禁じており、もちろん、中国が参加したアジア大会も認めない、といっている。

水泳などは昨年、米国チームが訪中したが、同じ米国人である国際水泳連盟（FINA）の会長さんは「規則は規則」といって、断固、これら選手を除名処分にしてしまった。

バドミントンではIBFに、非加盟国との交流禁止条項はない。しかし、消息筋に聞いたところでは、アジア大会が正規の競技会として開けるかどうか疑問がある。即ち「優勝を決め、順位をつける形の競技会は認めない」方針だという。

バドミントンの日中交流は大いに日本にプラスしたが、IBFの方針で、中国の参加が不可能になれば、アジア大会は、価値が下がることになる。もっとも男子の場合は、インドネシアマレーシア、タイいずれも日本の強敵であり、中国が参加しなくても、日本がメダルを手にするのは難しいが……。

国体の開催方法が変わる
年齢別制へ移行する

国体の開催方法が変わった。国体開催基準要項が変更されて50年の三重大会（バドミントンは松阪市）から、参加種別が年齢別になる。これに伴い、バドミントンも①成年男子（一般・教員）②成年女子③少年男子④少年女子として編成変えされる。成年男女には大学生は含まれない。各種別とも監督1、選手3の編成。1複2単の対抗トーナメントで、3決を行う。

成年男子のうちの一般の部だけは47都道府県から、すべて代表を出せるが、他の種目は別記のように地域代表制となる。参加選手団は、以上で総計三百八十人である。

（注）地区の区分のうち①関東には山梨を含む②北信越は新潟、長野、富山、石川、福井の5県③東海は静岡、愛知、岐阜の3県④沖縄は九州に含む。

盛衰のカギをにぎる広報
他山の石とせよ

いまごろ、冬のスポーツの話でもあるまいが、アイスホッケーがすばらしい勢いで伸びてきている。それで、ベースボールマガジン社が昨秋〝スポーツ・マガジン〟という競技のシリーズものの一つで、アイスホッケーの特集を刊行したほどだ。

その伸び方は、登録人口でもわかる。この一年で二千人ふえ目下、五千人余となった。この競技はチームでなければならないし、スケートリンクがなければ練習できない。そういうハンデを考えれば、鹿児島、熊本にまでチームがあるのは、大変なことである。

それだけではない。いわゆるちびっ子（中学生以下）の競技が盛んになってきたので、今年初めて、連盟が後援して3地域（北海道、東日本、西日本）ちびっ子選手権を開いた。愛知県のチームが上京して、東京のチームと試合したり、というのもしょっちゅうだ。

このちびっ子の方も、日本アイスホッケー連盟は、きちんと登録（ただし無料）させており現在約千二百人もいる。先日は伊勢丹デパートに女子チームが誕生、男と戦ったことが新聞、雑誌で報じられた。

一方、広がる底辺を拡大し、さらにはレベルを引き上げようと、日本連盟は全日本選手権の方式を変えた。これまでは日本リーグ（5チーム）に、二、三の社会人、学生チームが加わってのトーナメント制。日本リーグのチーム以外は〝つけたり〟だった。今度はA、Bの両グループ制とし、Bグループには二線、三線級チームを参加させた。来年からは、これをA、B、C制にして、さらに励みを持たせたい、といっている。

連盟会長は、強豪チームを持つ国土計画の堤社長。アイスホッケーは昨年、スケート連盟から独立したばかりだが、役員がやる気のあるもの揃いだし、会長も若いだけに、いいと思ったことは、すぐ実行する。

もう一つ、注目したいのはサッカーだ。この競技、昨年からミニ・サッカーの大会を開いている。室内（戸外でもやれる）で六人1チーム、グラウンドの広さはバスケットかハンドボールぐらい。冬季の練習や、基礎の修得にも役立つ、ということで、普及を計ったわけ。

昨年、協会が用意した〝簡易ルール〟パンフレット五百部は、あっという間になくなった。

協会に刺激され、伊勢丹が屋上で大会を企画、参加を公募したら、なんと千二百チームも申し込みがあり、収拾がつかぬ騒ぎだったという。

サッカーは日本で最も普及し人気もある競技。その団体にして、この努力である。協会はミニ・サッカーのことを「三角ベース（草野球）の精神で」といっている。

軟庭は、これまで日本、韓国台湾の三ヵ国でしか行われていなかった。しかし、四、五年前から在日米軍キャンプのアメリカン・スクールに種を播いたのがきっかけで、いまやハワイ、コロラドの両州、ブラジル、中南米にまで進出した。

もちろん日本連盟の木田理事長みずからがハワイまで足を伸ばし、講習会まで開いた結果である。三ヵ国で成立していた〝アジア軟庭連盟〟も、すでに〝国際連盟〟と看板をかけ替えた。来年は軟庭史上、初の国際選手権が開かれることになる。

普及、広報活動が、いかに競技の栄枯盛衰に影響するものであるかは、過去の他のスポーツの例をひくまでもなく、明らかなことである。

第三回国際バドミントン競技大会特集

（撮影＝山田真市、増田保夫、田口淳一）



日本男子選手の歌に耳をすます（左から，デルフス，ハンセン，シーボルト，ボストフ，リュースケン，ビューセコム）歓迎レセプションで



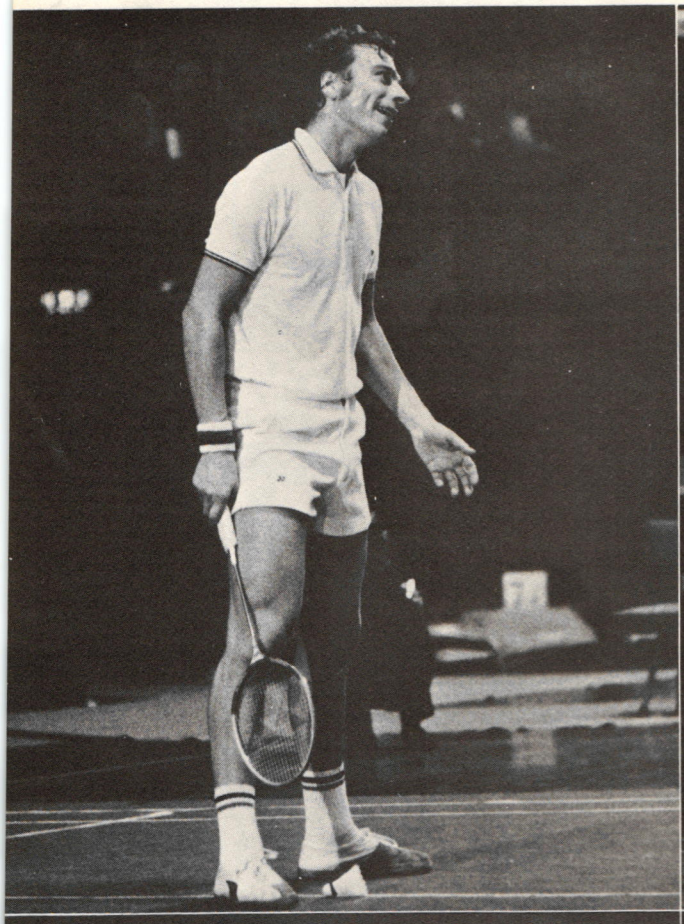
見事な（？）コーラスを聞かせる日本男子（左から銭谷，池田，土田，飯野，栂野尾）

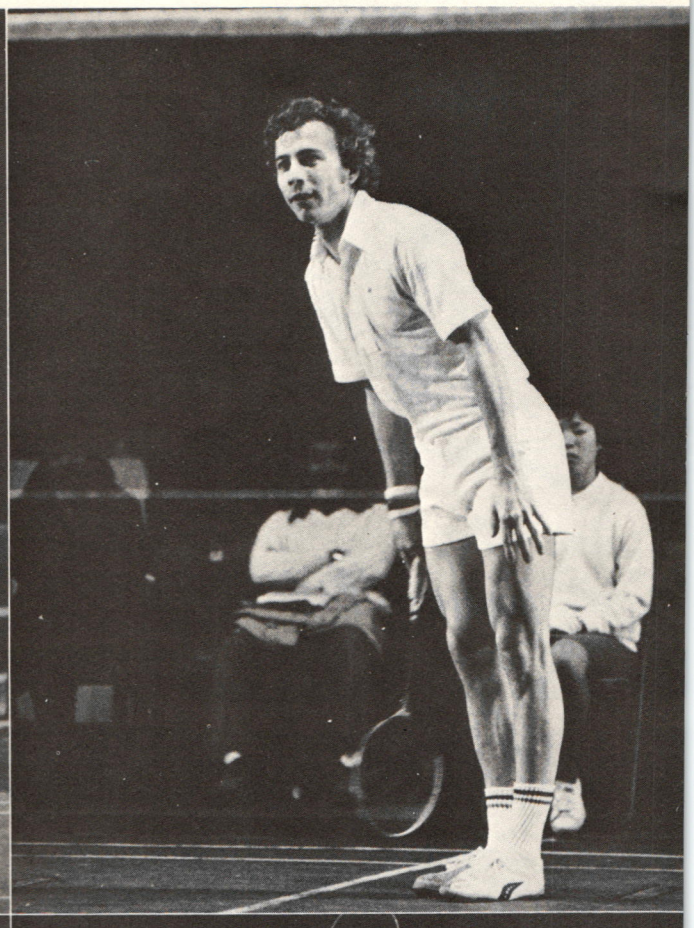
しかし評判のほうはあまりよくないようで，ビューセコムは湯木に「メズラシイウタデスネ」と耳うち……

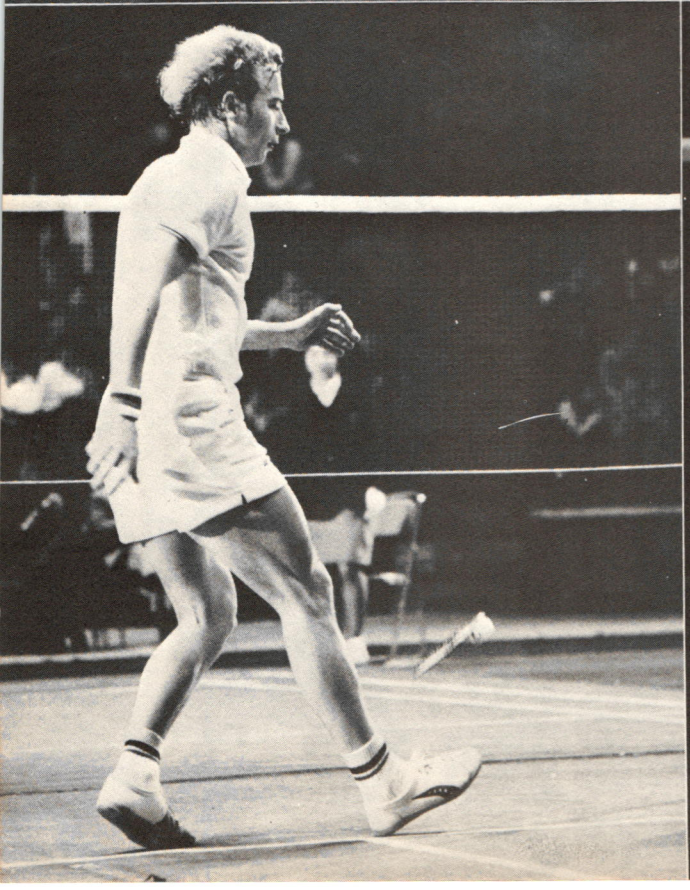


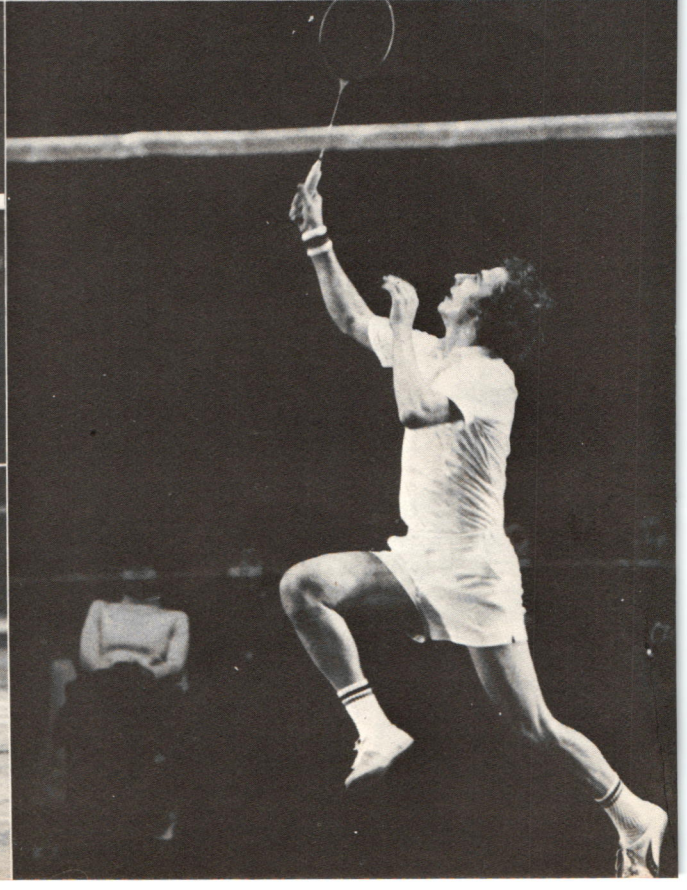
観客を楽しませたハンセン

デンマークのハンセンは，その愛きょうのある表情としぐさで観衆を楽しませた。コートにはいると〝よろしくお願いしまーす〟(右上)，フェイントを多く用いたり（右下），相手のスマッシュに〝まいった〟(左上）と余裕をもっていたが，負けるとくやしがってラケットに八ッ当たり（左下）



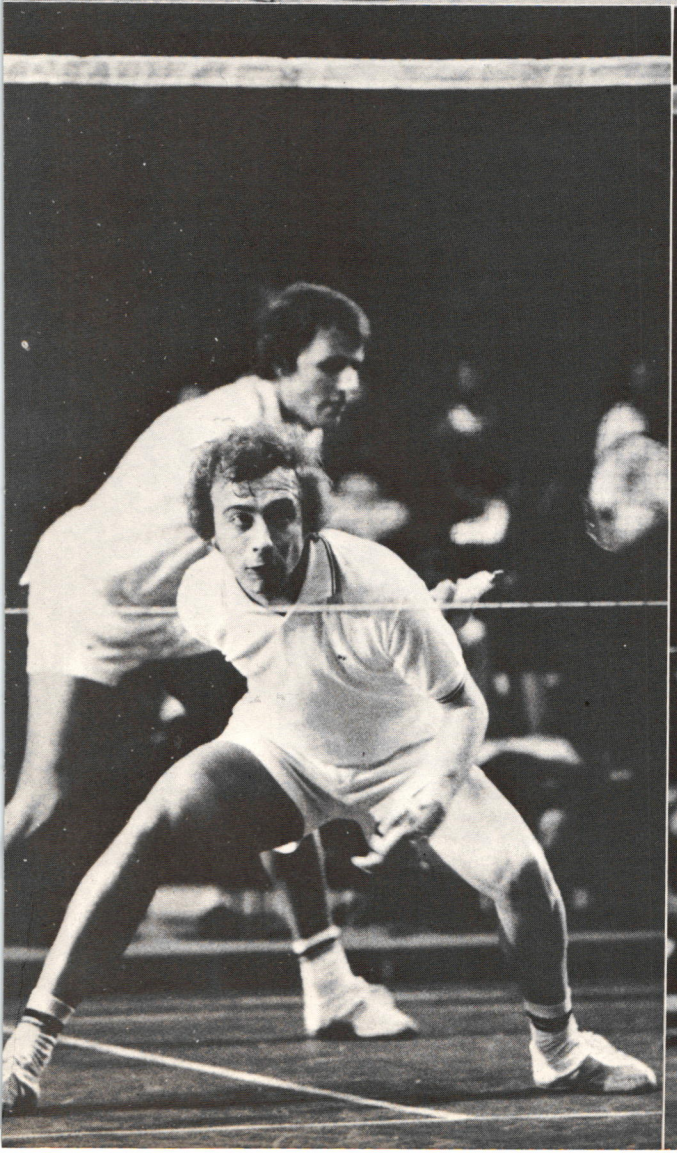




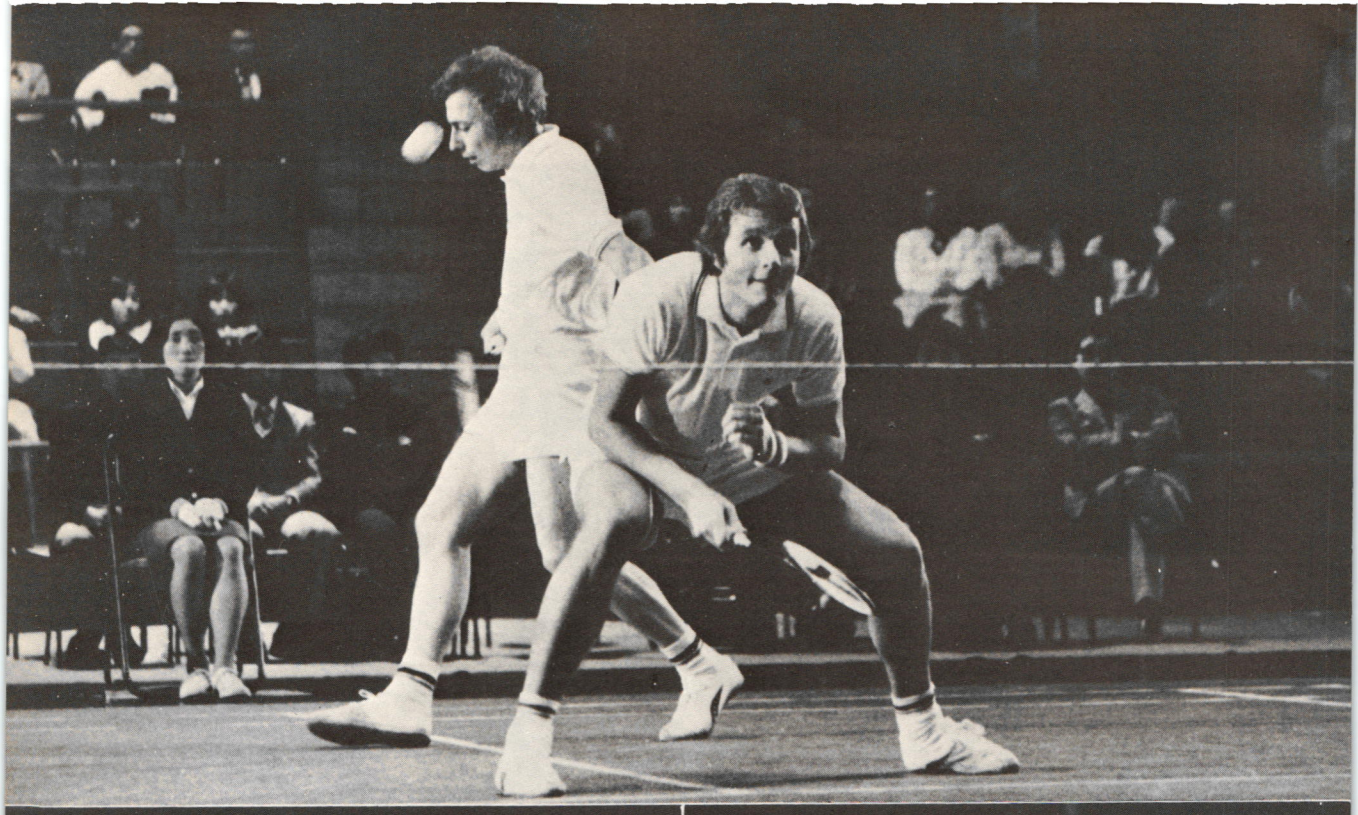


豪快でコミカルなプレー、ハンセン・デルフス組







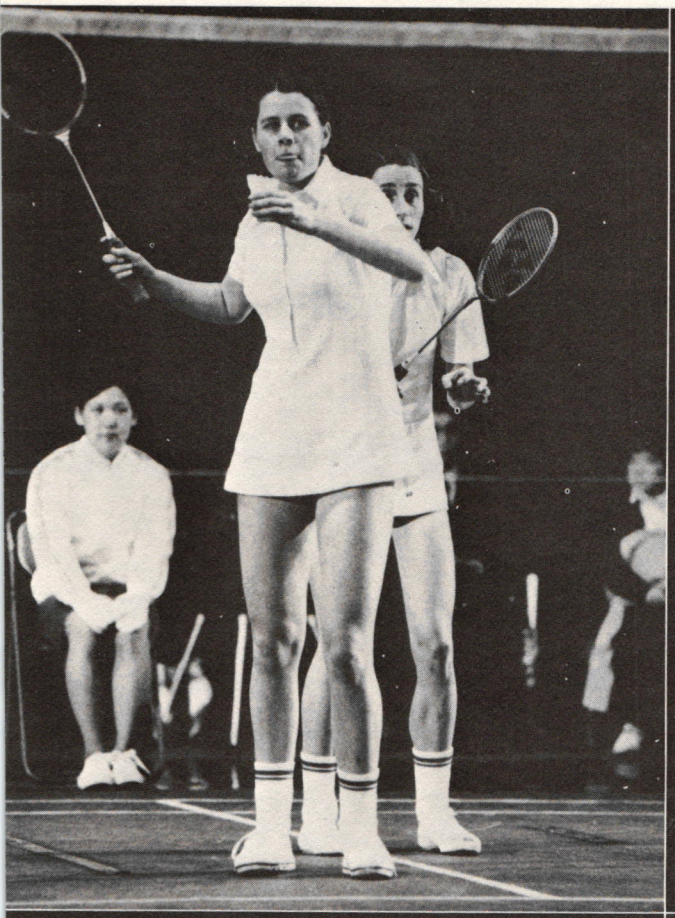




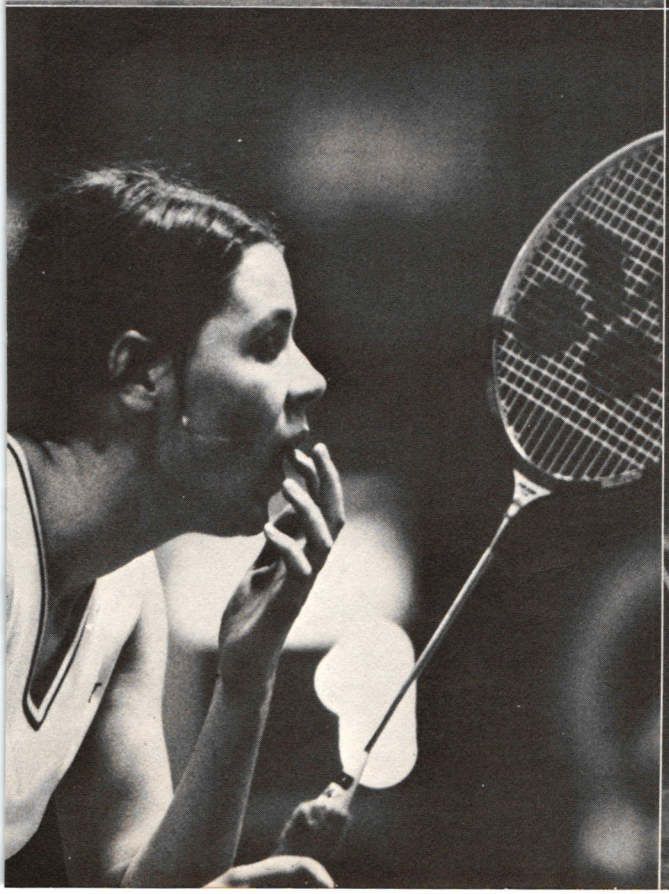


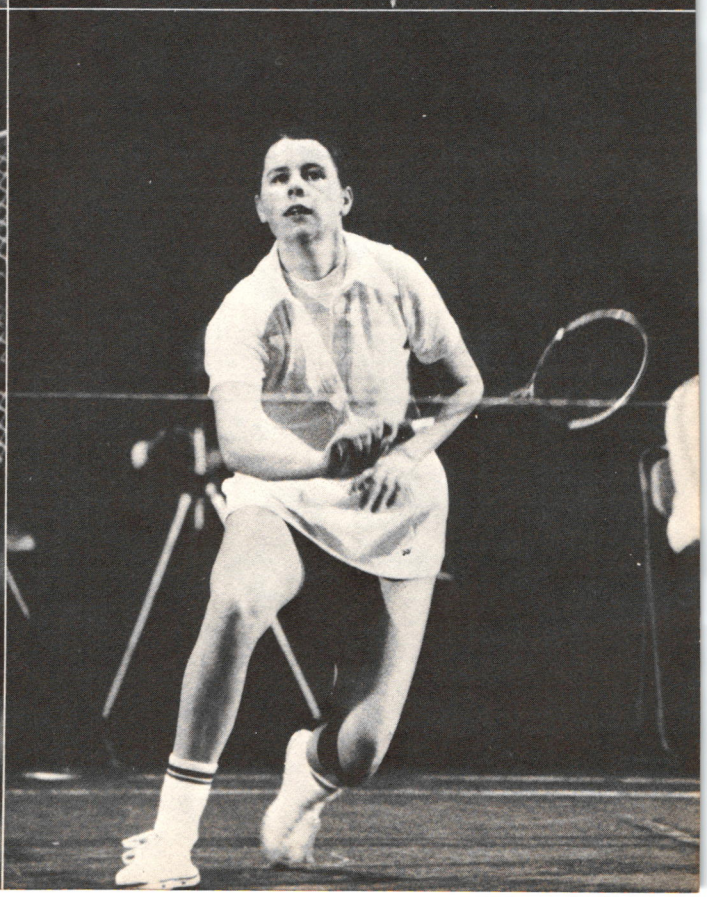
人気のまとヨーコ

オランダのヨーケ・バン・ビューセコムは〝ヨーコ〟の愛称で親しまれ，人気のまととなった。しかし，コートにはいると闘志をむきだしにし，オランダ・ナンバーワンの意地をみせた。





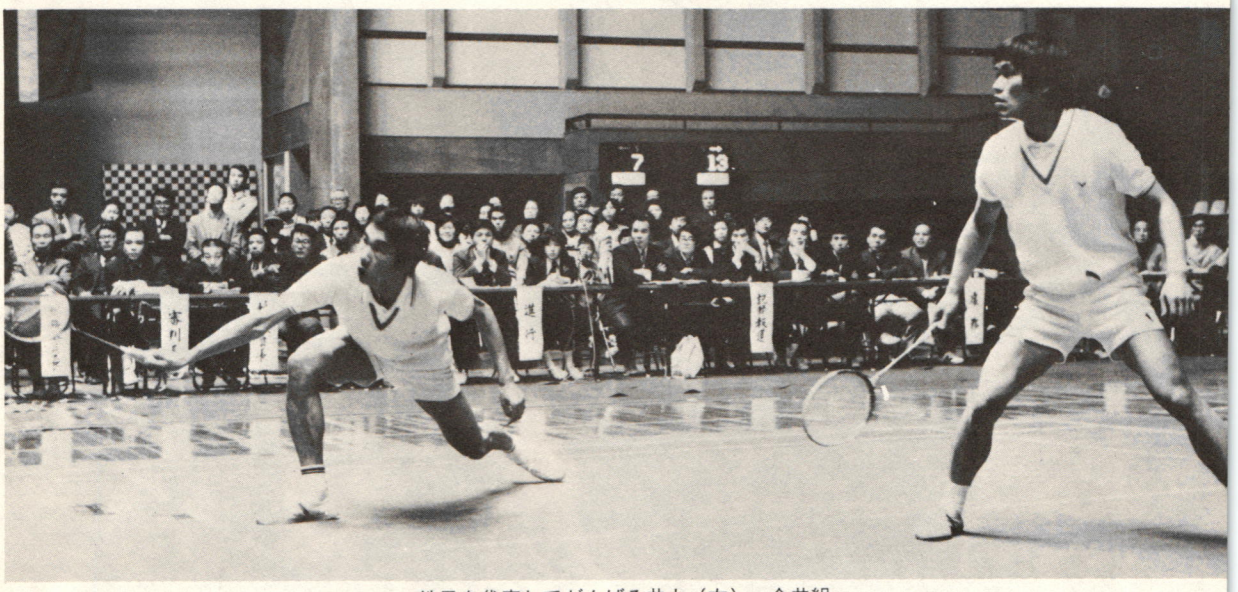




桐生大会にひろう

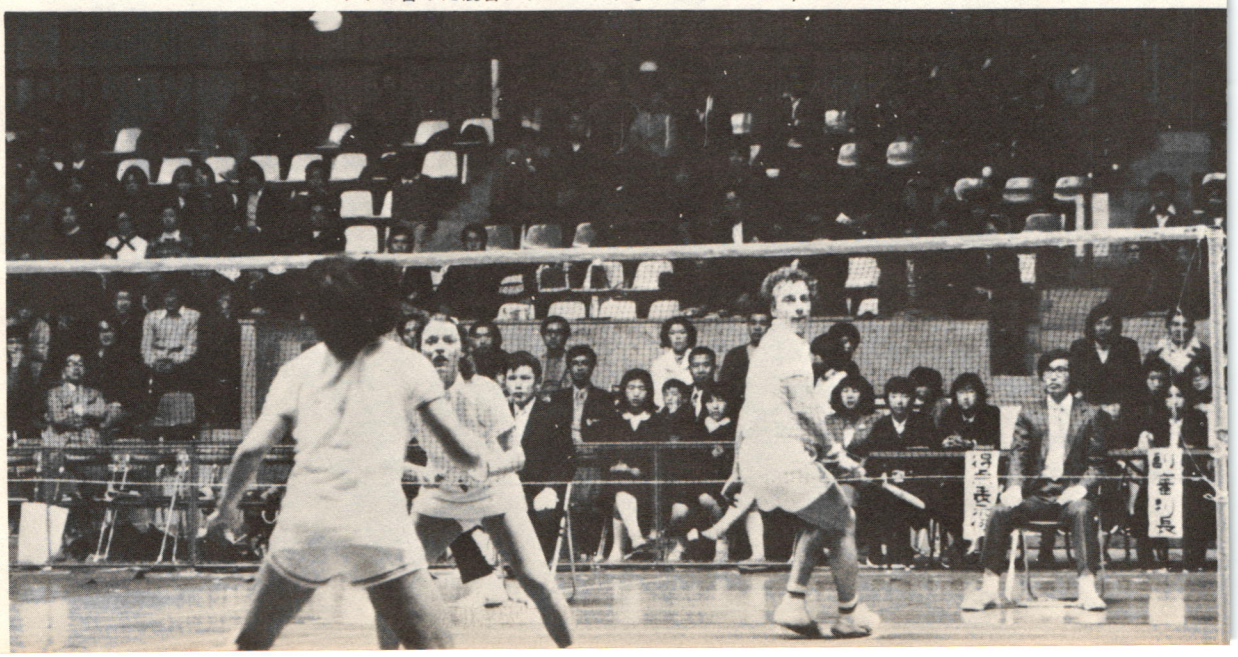


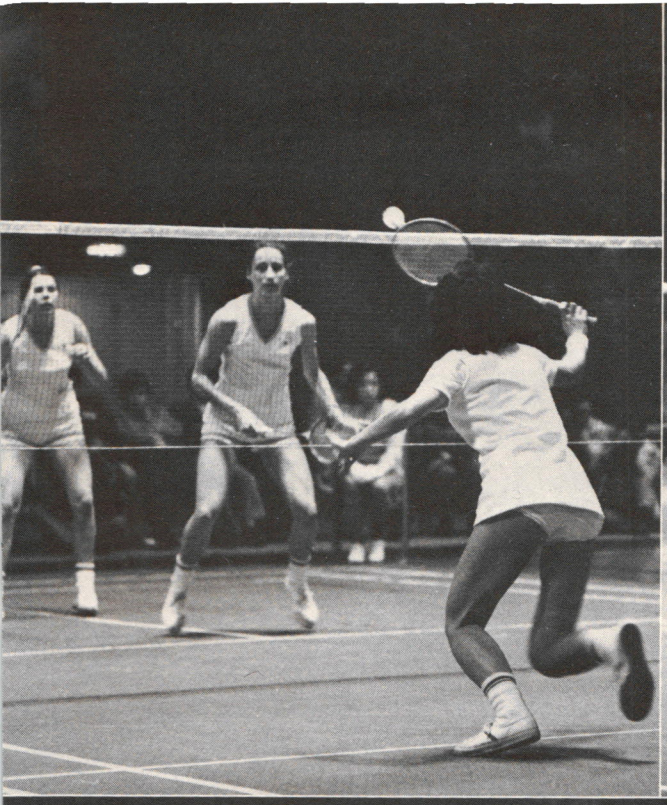
桐生大会歓迎レセプション

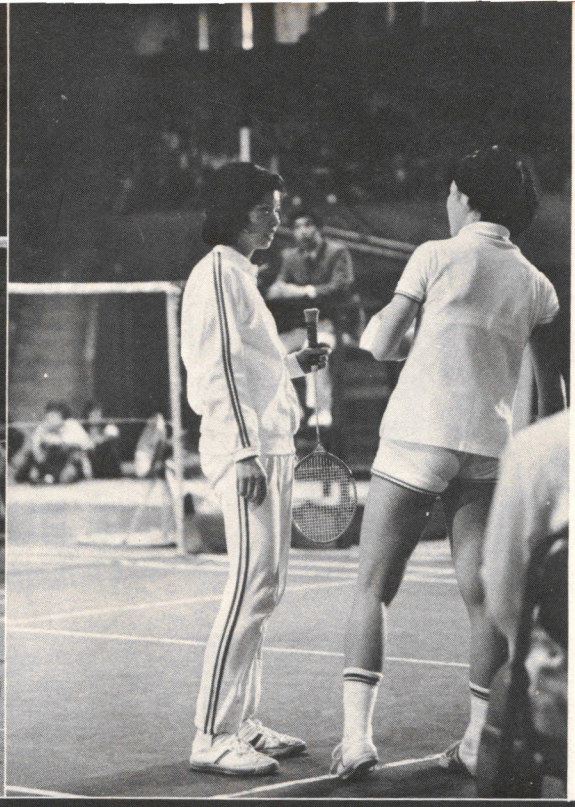


地元を代表してがんばる井上（右），今井組

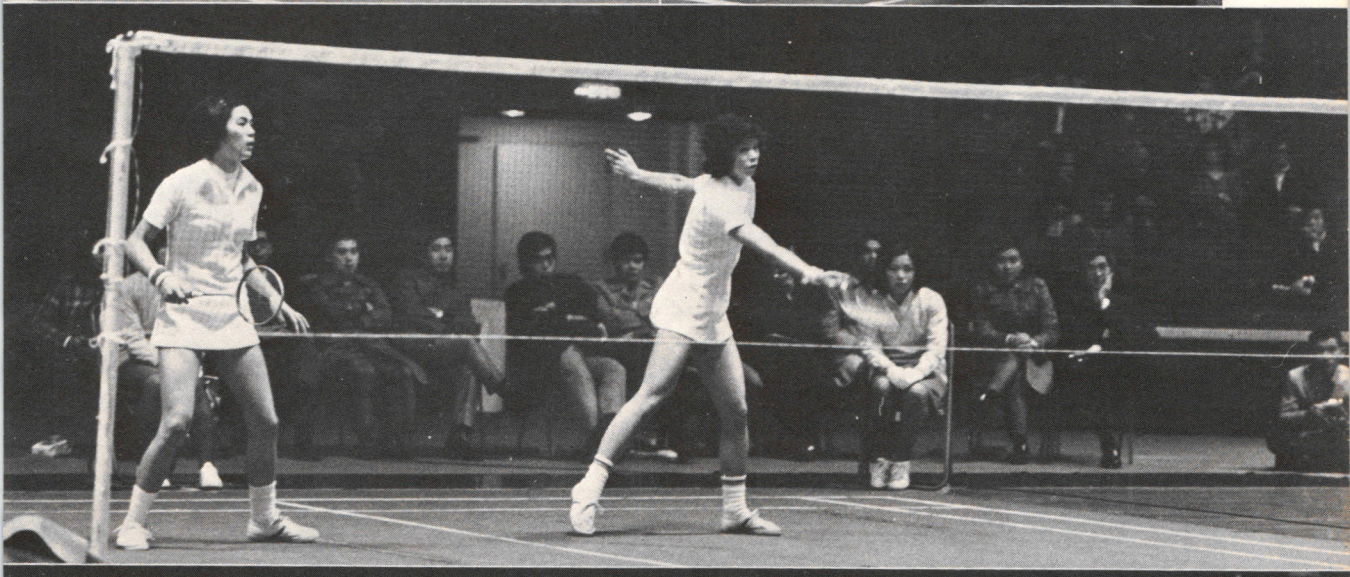
イキの合った混合ダブルスぶりをみせたハンセン，ボストフ組

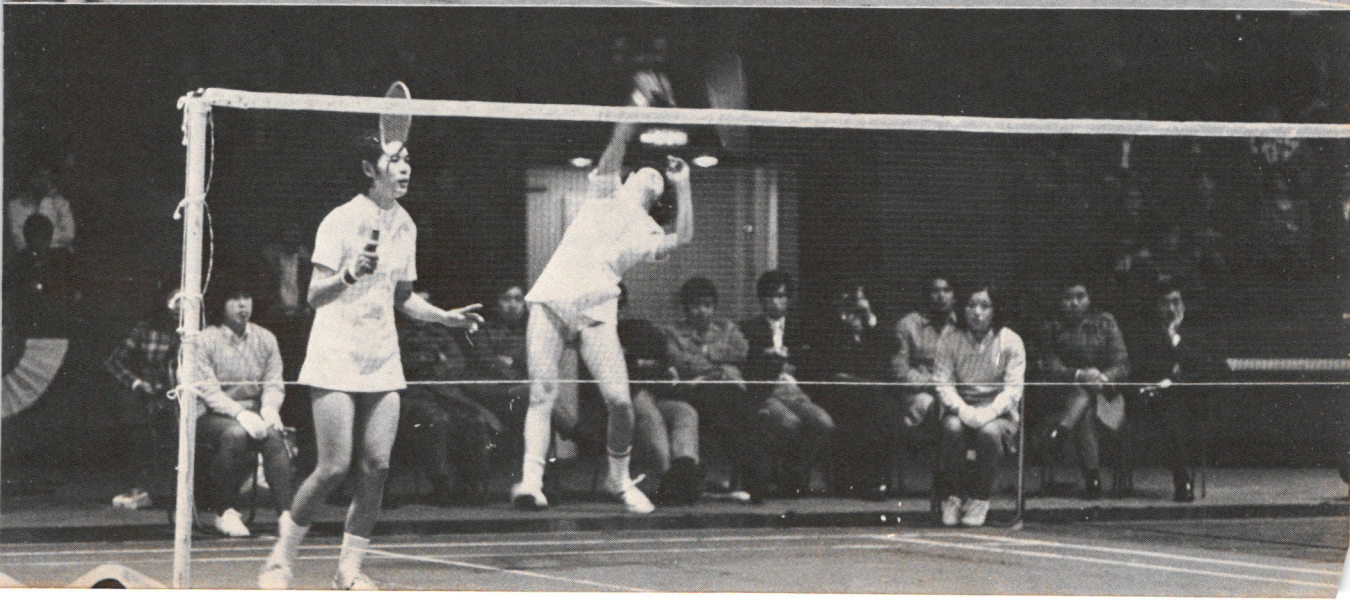


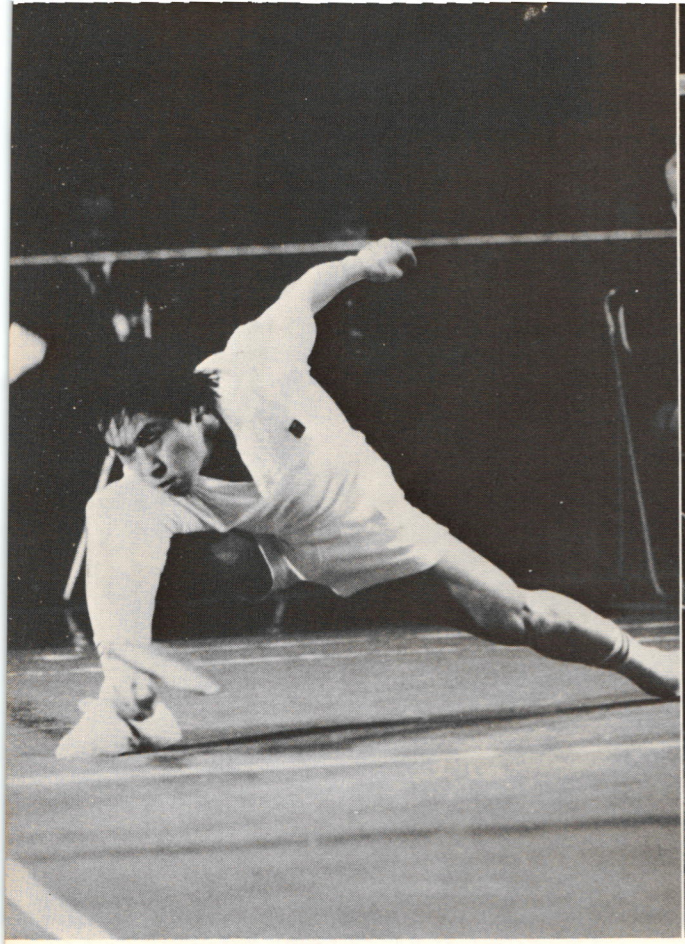




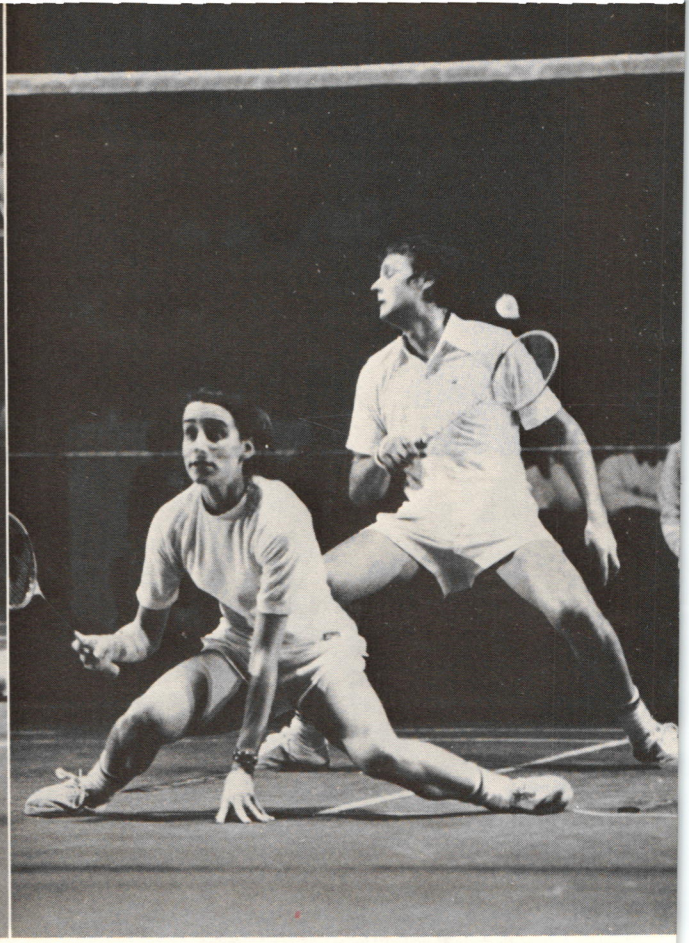
このページは本誌愛読者の田口淳一さん（千葉県柏市）がお送りくださった写真でかざりました。転倒した竹中さんを心配してかけよったパートナー相沢さんの表情が非常によく出ています。





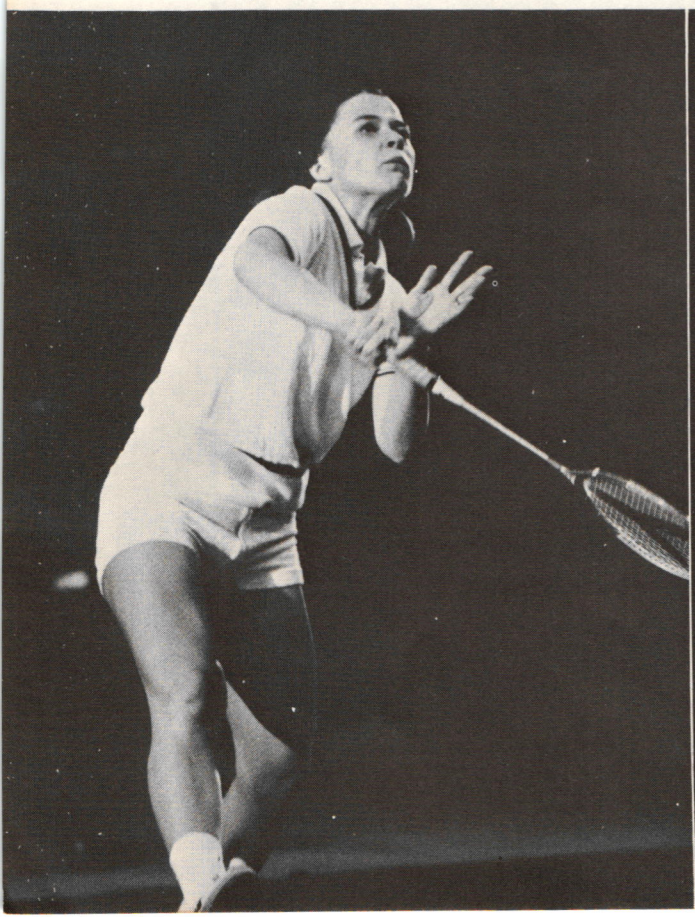


練習不足ながら奮闘する〝ガッツ〟小島



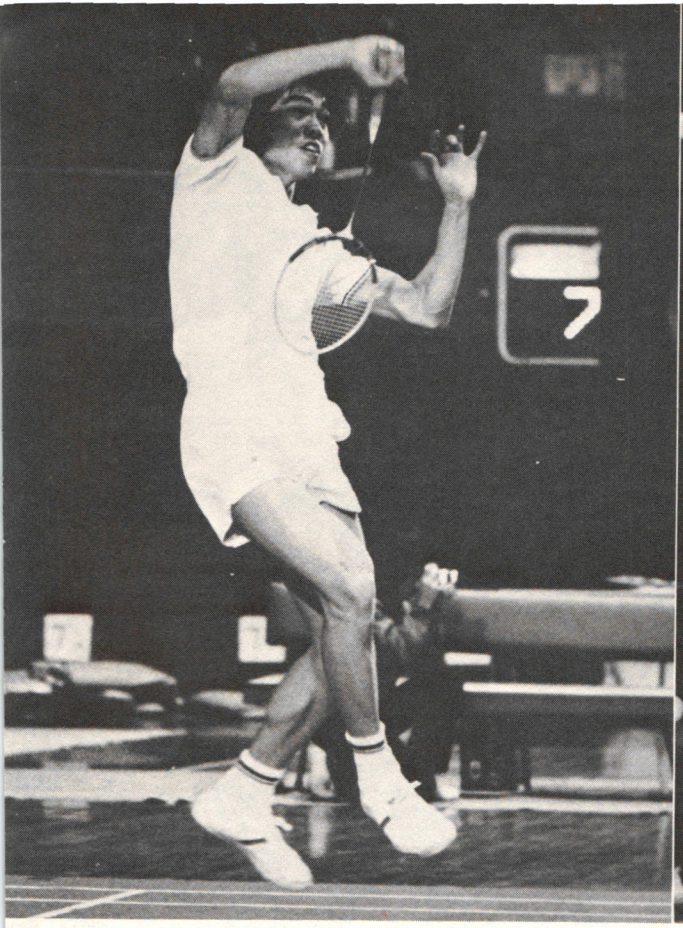
リュースケン（手前）デルフスの混合ダブルス

ロニー・ボストフ

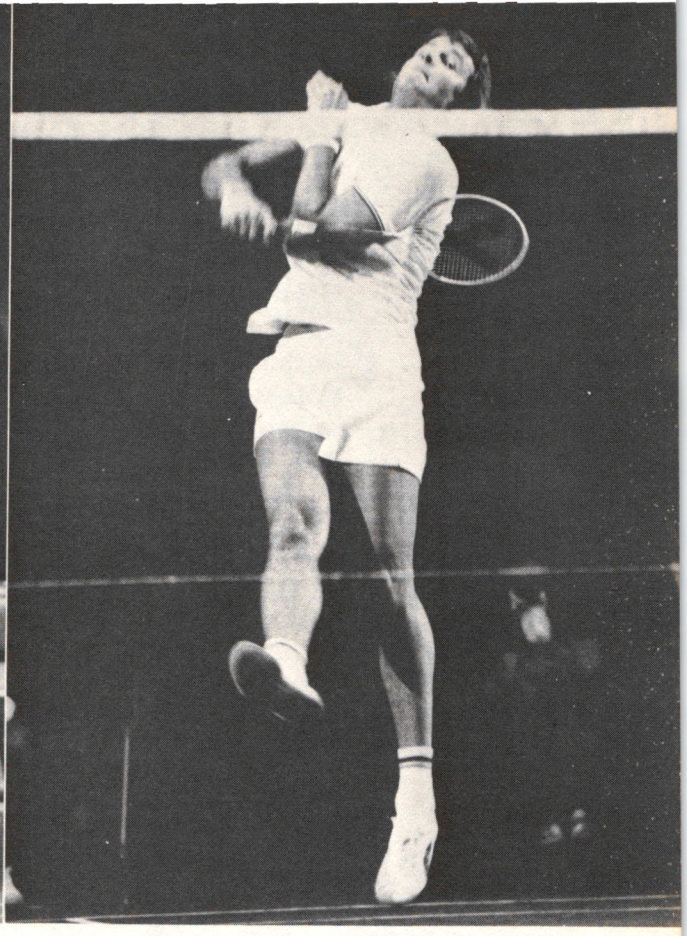


グッドラン・シーボルト





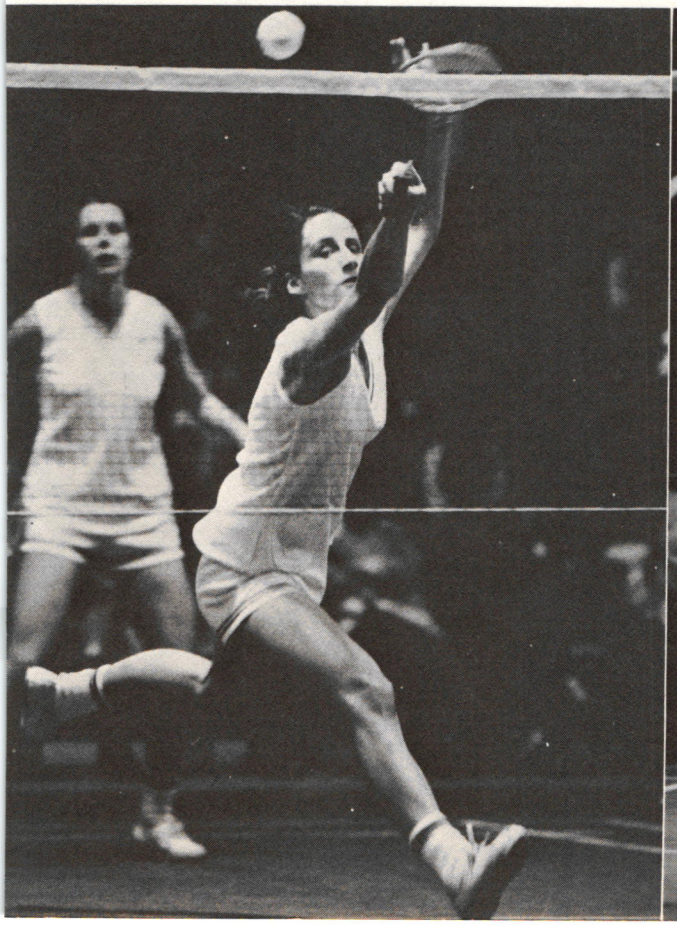
若さで真正面からぶつかった銭谷

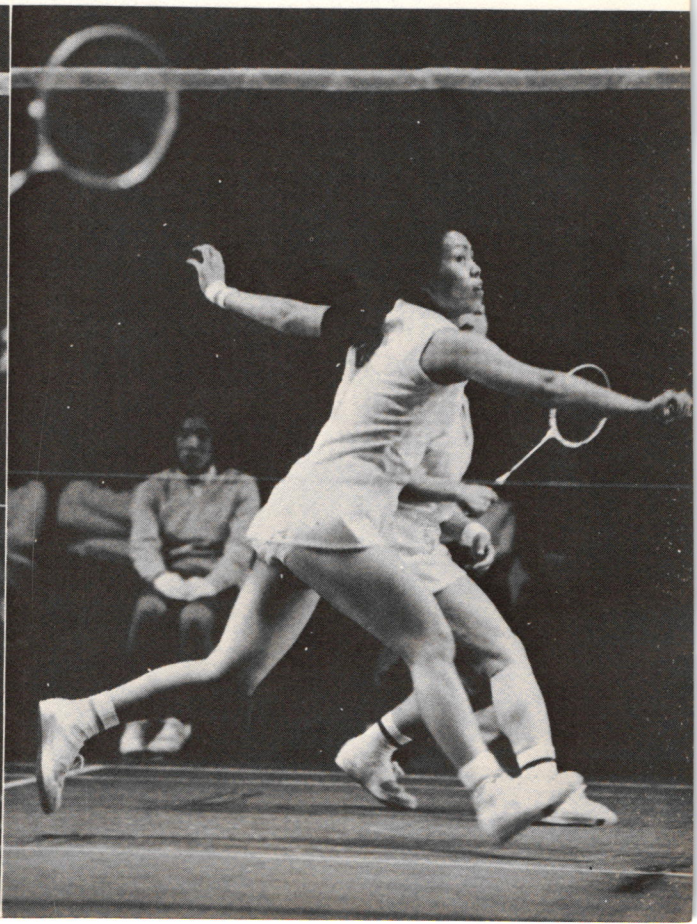


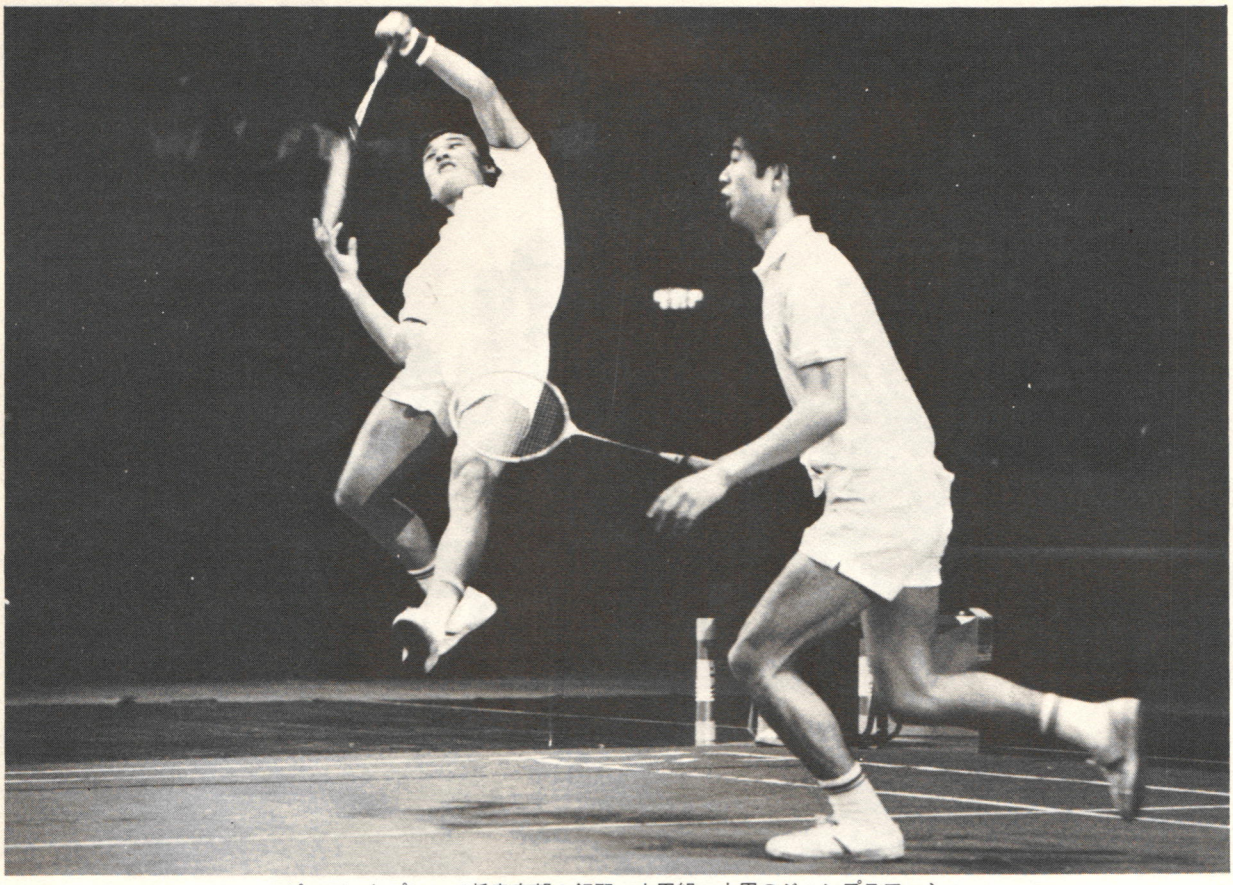
〝ジャンボ〟デルフスの豪快なスマッシュ

マーヤン・リュースケンのプッシュ

湯木博恵

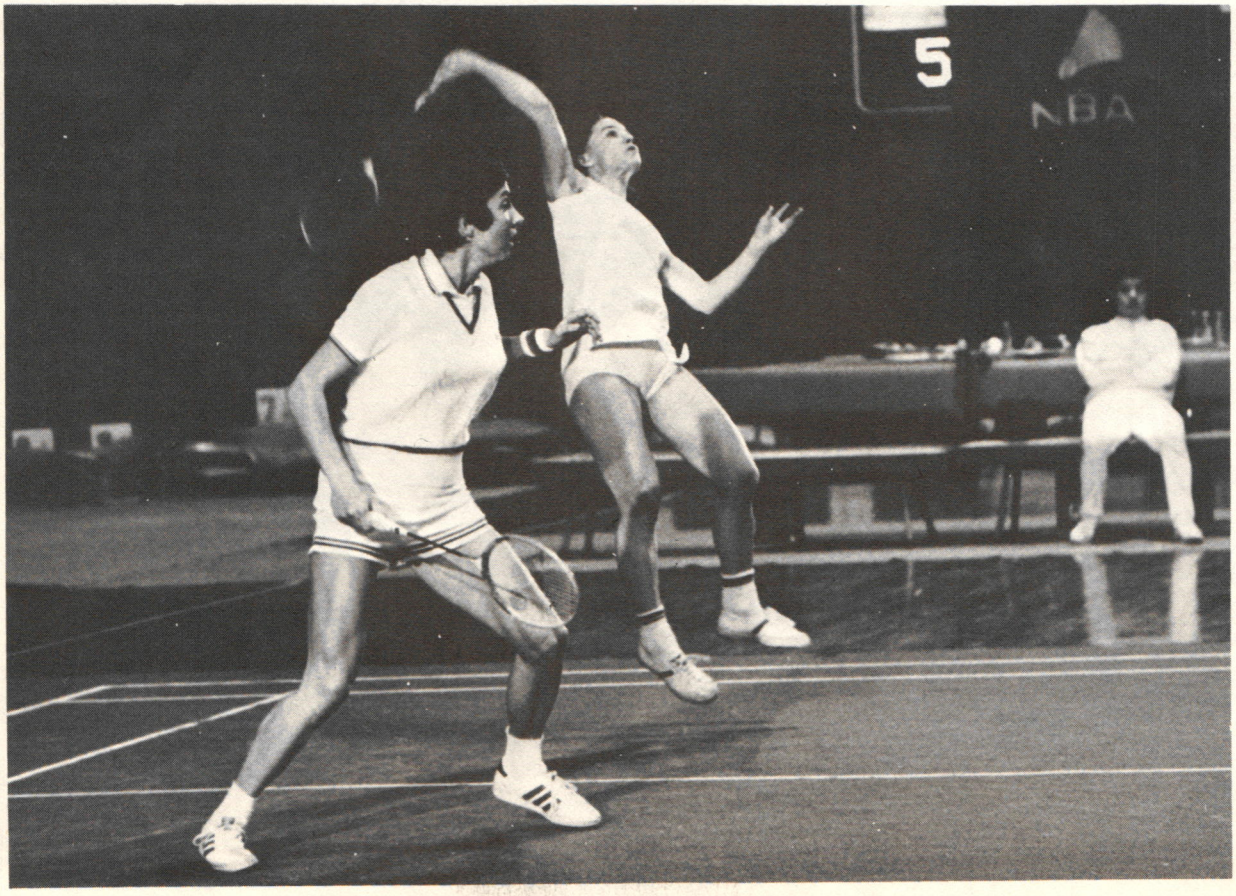






スピーディなプレーで将来有望の飯野・土田組，土田のジャンプスマッシュ

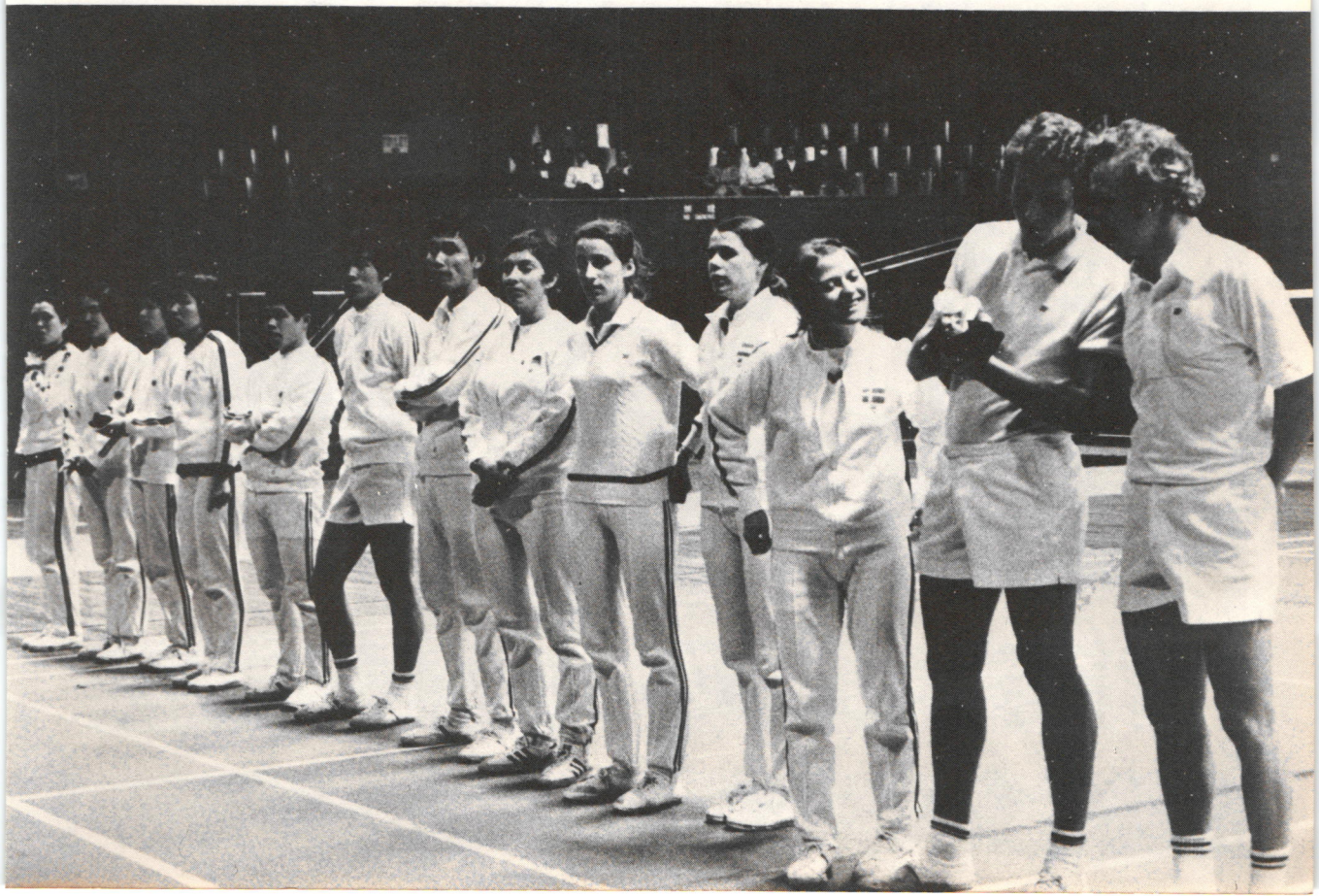
けんめいに食い下がるシーボルト（左），ホストフ組





寒風の中，入場を待つファン（最終戦）

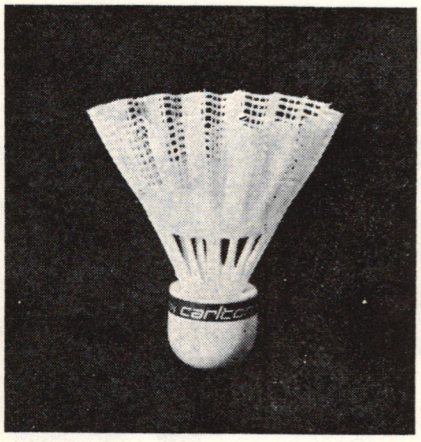
全日程を終了，記念品をのぞきこむデンマーク選手



カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

実戦教室〈第1回〉

をねらうのために＝

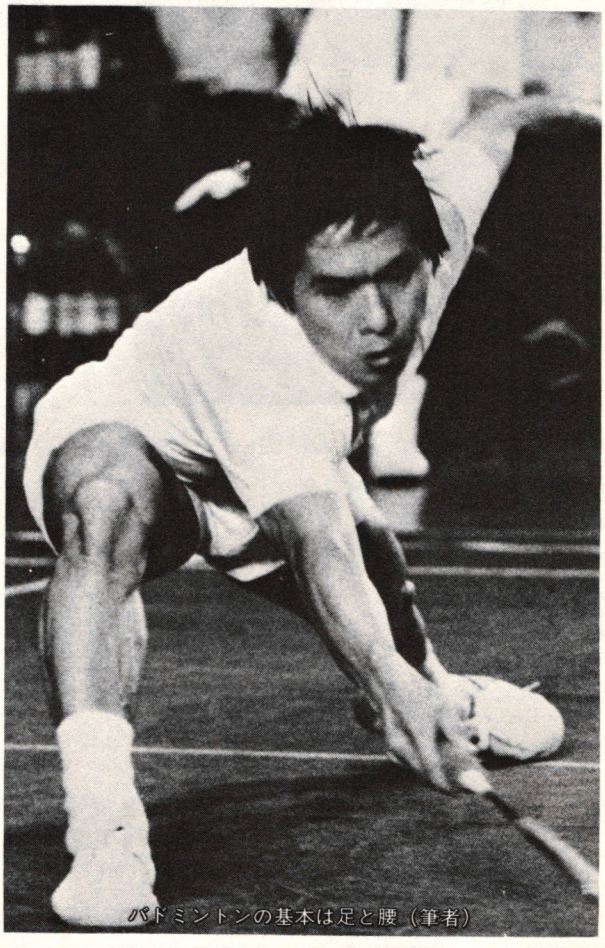
小島一平

最近、読者の皆さんから「実戦に役だつような指導方法を教えてくれ」とか「中学生のバドミントン部の顧問になったが、どのように指導していったらよいのか」、「だれもコーチしてくれる人がいないが、どんな練習プログラムを組んだらよいのか」といった問合せが続々と編集部あてに届いています。

そのためには、先々月号（第49号）でご紹介した本を読んで下さるのも一手だと思います。しかし、それだけでなく現在第一線で活躍中の選手に、その歩んできた道、考え、主張、モットーといったものを連載していただき、その中から若い人たちは練習方法を、指導の立場にある方は、生徒をひっぱっていく方法を学んでいただこうと考えました。

そこで、昨年までに全日本のダブルスのタイトルを4回、シングルスのタイトルを7回獲得し、また国民体育大会で3連勝を続けている小島一平選手に、その歩んできた道を通して、現在感じることを含めて、バドミントンでインターハイ制覇するための示唆となる連載をお願いしました。

ご承知のとおり小島選手は身長160センチというように、決して生まれつきの天才ではありません。それを補った闘志と努力から何をどのように学ぶかはあなた次第なのです。



バドミントンの基本は足と腰（筆者）

バドミントンに取り組んでいる中高校生の皆さん、あなたは、確固たる目標をもって、練習に汗を流していますか？

目標をはっきり定めなければ、苦しいトレーニングは、克服できません。ですから、まず小さな目標からスタートです。最初は同学年でナンバーワンになり、次は、部内で、そして新人戦、県内大会、全国大会というぐあいに、不運にも目標を達成できなかったら、また新しい気持ちで次の試合に向かってスタートするのです。私の経験から言って、つねに努力している人は、必ずチャンスがめぐってきます。

例を上げると、たまたま優勝候補にアクシデントが起ったとか、しかし、チャンスはそう簡単には、めぐってきませんよ。一年に一回かもしれないし、三年に一回かもしれない。ですから、つねに真面目にバドに、取り組んで下さい。

私の今までの経験を通して、どのようなトレーニングがバドミントンには必要か、効果的か、なぜ、遂行せねばならないか、話してみたいと思います。どのスポーツにおいても、足腰の強化は、第一と考えます。

長距離の必要性とは、確かに体力を作ることですが、プラス自己に打ち克つ精神力の鍛練です。マラソンは、孤独です。だれも助けてくれません。自分の気持ち次第で速く走ることもできれば、おそくすることもできます。高校生は最低5キロ、中学生は3キロ必要です。

しかし、長距離だけではコートに入ってバテることはまちがいありません。ということは、持久力はつきますが、瞬間的に激しく動くコートでは通用しません。バドミントンに適した心臓を作らねばなりません。

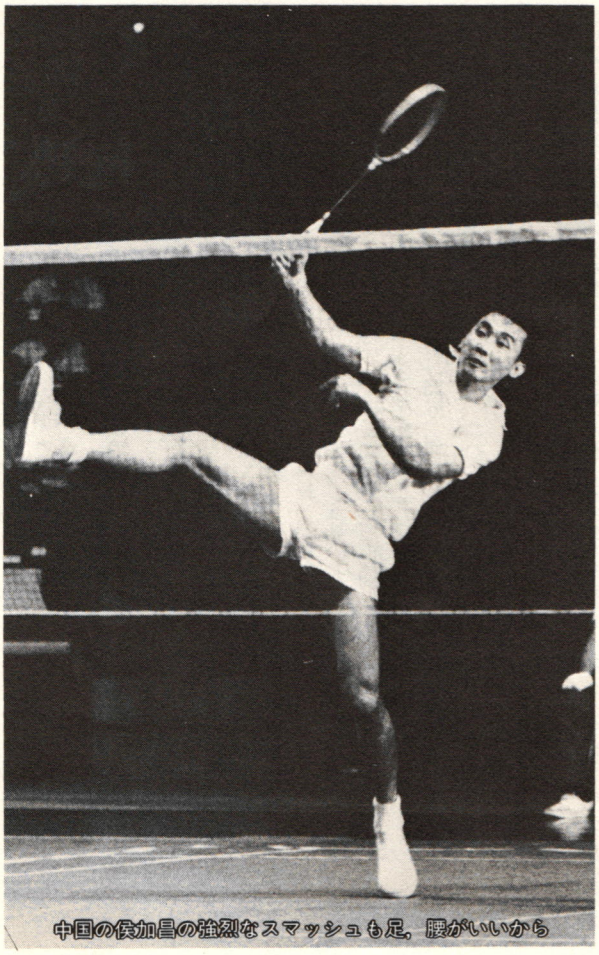
●新連載

体当たり

＝インターハイ

中高校生

●*Ippei Kojima*



中国の侯加昌の強烈なスマッシュも足、腰がいいから

ですから、インターバル・トレーニングを行ないます。たとえば100メートルダッシュ、50メートル軽く流す……その連続です。

そしてまた、中距離400、800メートルと短距離50、100メートルの競争あるいは、タイムをはかり、自己の目標を定めるのです。

そして、坂道あるいは階段のダッシュ、つねにつま先立って走るため、平たんを走るよりも運動量が多いので、必ず実行して下さい。また、パートナーを背負うことも心がけて下さい。

とにかく走ることがスポーツにおいては基本ですから、走っていれば故障も少なくなることはまちがいないことです。

次に、ウサギ跳びですが、私の高校、大学時代は今思い起こすとウサギ跳びの苦しさが一番だったことは確かです。

注意すべき点は、コンクリートのように固い所は避けて、芝生か土の上で行なえば、膝の故障はだいじょうぶです。

跳び方は、腕を組まないで、大きく大きく跳び、立ち上がる時は鋭く速くすることです。

私が一番辛かったことは、階段を降りることができず、後向きになって手すりを伝わりながら降りたこともありました。足が棒のようになって……。

それぐらいやってみよう。足がつるとか、痛むとか、こわがっていては、もうそれだけで一歩出おくれています。

次には、ジャンプ力を養うことでナワ跳び。床から30センチのところにヒモを張り、左右に跳び越し、また足を胸まで引きよせるようにジャンプします。

バドミントンの三原則、「より速く」「より高く」「より前で」の、より高くシャトルをとらえるにはジャンプ力が必要であるからです。

そして、パートナーを腰に乗せ、手は壁につき、足の屈伸運動も、足腰の強化にはとても有効です。これは中国の選手がつねに行なっていました。

このほか片足跳び、後向きに走るなどありますが、一日で全部をこなすことはむずかしいので、今日は三種目とか四種目を限定し、集中的に行なうとよいでしょう。

また、気分転換もかねて、ボールを使っての楽しみながらのトレーニングもよいでしょう。これはパートナーにボールをどこかに投げてもらい、それをまたパートナーに戻すといったぐあいにやります。

とにかくバテることを恐れずに最初から全力で突走ろうという気持でやることが望ましいのです。

バテてからが勝負。元気のときはだれもできるのですから。

（次回は腹筋、背筋などについて）

■今回は基礎体力の重要性、その養い方、取り組み方といったテーマで書いていただきました。今後、コートにはいってからの練習方法、そしてさらには試合に対する心がまえ、戦術・戦略といったことまで体験を通じての迫力ある連載が続きます。ご意見、ご希望、小島選手へのお手紙など編集部へお寄せ下さい。

バドミントン指導について（上）

＝その実践と提言＝

伊藤俊彦

昭和46年度から愛知県体育協会が、一般地域住民が生活の中で、すすんでスポーツに親しみ、健康で明かるく豊かな生活をきずくうえに必要な指導者を養成することを目的とし、「スポーツ指導員養成講習会」が毎年実施されています。

対象者は市町村において、体育、スポーツ活動の実際的指導にあたっているもの、または今後指導者になろうとしているもので、市町村教育委員会、市町村体育協会がそれぞれ推せんされた該当者で、8種目実施され、バドミントンもこの中に含まれており、毎年指導者を養成している。

とくに受講生は、一般教養のほか指導実習として、スポーツ教室または、クラブ指導の実務（20時間）を経て、レポート（400字原稿用紙10枚程度）を提出し、審査に合格した者に対して資格を認定することになっている。

とくに認定された該当者のうち、岡崎市の伊藤俊彦氏のレポートが非常にすぐれておりますので、今後の参考になればと思い寄稿いたします。

読者の方々で、本稿に対してご意見がありましたら、左記あてお送り下さい。

愛知県バドミントン協会

副理事長　伊藤鉱一

（本稿に対するご意見のあて先は、〒462愛知県名古屋市楠町大字味鋺字狐塚四二八〇・あじま荘N25号　伊藤鉱一気付・愛知県バドミントン協会）

□　□　□

わが国のバドミントン競技人口は、ここ数年来非常に多くなってきている。ユーバー・カップの三連勝を筆頭に国内では中学生の全国大会が行なわれるようになり（昨年はその第二回大会が愛知県で開催された。）、従来の「女子の羽根つき」から、「近代のスポーツ」への仲間入りがより容易になってきたように感じられるのは私ひとりであろうか。

これら中学生の頃からバドミントン競技に親しむ機会が設けられるようになったことは、非常に意義深いものがある。長じた彼らが彼らの子とスポーツを楽しむについても、容易に取組めるであろうし、スポーツそのものに対する考え方も、より幅広いものになるであろうから。

かように、わが国のスポーツのほとんどが「学校における体育」にその基礎が見出せるのであるが、スポーツ人口の底辺拡大の意味からも、そしてまた、より身近かなスポーツ、手軽な健康管理の一手段としてのスポーツ活動、社会人となってからのスポーツ等々の為に「学校体育」以外の場における体育の必要性の意味からも「クラブ・ハウスの体育」がより重要になってくるであろう。そこからは、身体のみならず一社交場となるであろうクラブ・ハウスを通じて、精神的にも健康が増進されるのではなかろうか。

日本の過去には、そういった下地が出来ていなかったが、近年各地で各種の「スポーツ教室」が設けられたり、その為の施設が設置されつつあることは、より幅広いスポーツ活動・精神活動を目指すについて非常に効果あるものである。

さて、わが国に於ける近代スポーツとしてのバドミントン競技の歴史は比較的浅く、他の種目ほど競技人口は多くないのが実情であるけれども、これはある程度「特定者の競技」的な面があったり、施設がなかったりした影響があったように思われるのであるが、反面「子供達の玩具」としての器具（ラケットシャトル）が各家庭に必ずというほど備えられていたり、デパートの売場にならべられたりしているのは非常に面白い現象である。これは一口に、一セットの値段が子供達に与える玩具の域を出ていないことと、与えてさえおけば、という生活態度に起因しているような気がする。もっとも、与える側にとってもバドミントンそのものは「女子供の羽根つき」であるとしか自覚がないし、彼ら自身にも競技に対する認識がない。もとを正せば、日本のバドミントンとは、国民の間には所詮その程度のものでしかなかった。競技人口の少ないのも、けだし当然である。

ところが、近来前述のような諸条件が満たされて競技人口が増大し、各地で教室が催されるようになって、まず耳にすることは、やはり「指導者の欠除」であるし、また、入門書のたぐいがほとんどない。これは、極言すればバドミントン競技は、われわれ一般人から遊離していたことの証左であるといえようか。本年三月に蒲郡市バドミントンクラブ主催の試合に参加したのを契機に、当該クラブの指導を依頼され今日に至っているのであるが、ここでも同じ悩みを聞いたのである。

そこで、私が実際に指導の場にあって先ず必要とするのは、「基本的事柄の解説」である。私自身の実戦での経験、一流プレーヤーのプレーを見、そして会得した技術、私の理想とするバドミントン競技等々を程度に応じて文書にし、受講者に配布して教室の初日に「バドミントン競技」の概略を説明することにしている。もちろん、バドミントンの原形の発祥から説き起こし、イギリスで近代スポーツ化されたこと、それ故礼儀を重んずること等々を包括するのであるが、この資料作りたるや大変な作業で、実技指導と同等もしくはそれ以上の比重を占めるところのテキストともなれば致し方のないところではある。

（以下蒲郡での実際について言及する。）

さて、縁あって蒲郡バドミントンクラブのコーチをつとめて今日に至っているのであるが、当該クラブ員は三〇名程度で、年令的には一六歳から五〇歳くらいと思われる男性まで、また、職業上からは学生、会社員、公

務員、自営と、かなり広範囲に亘る男女同数程度の人達の参加で、夜間の六時から八時までの二時間を市民体育館（本来バドミントンコート八面の設備があるが、同時にバレーボールクラブや卓球クラブが半分を使用する関係上、実際使用コートは四面）で、本年四月から行なっている（七、八月中に、クラブ員の指導のほか、クラブ主催の「教室」の指導を九回、時間にして一八時間しているが、指導方法等に大差ないため、ここでは言及しない。）が、初回に資料の配布とその解説を行ない、バドミントンの概略を知らせ、それと併せて参加者の参加意図は何か、換言すると、どんな目的を持って参加しているのかを把握し、それぞれの目的に合致した方法を採ることによってクラブでの指導方針を決定した。それによると次の二通りに大別出来る。

一、来年度から愛知県バドミントン協会に登録して、各種の大会に参加する。

二、美容と健康保持のためにする。

一については、二〇歳代の若い男性と当該クラブでのリーダー格の男性が、また、二については、独身女性と男女の高令者が、それぞれ目的としていることが判明した。

かようにして方針が決定すると、次に実際の指導方法をどのようにするかという問題が出てくるのであるが、一は明らかに勝つための練習を望み、二は比較的のんびりとした楽しく出来る練習を望んでいる。しかし、一も二も共に当該クラブ員である。お互いの和を損ねることは妥当でないので、いかに調和させるかに腐心した結果、休憩時間中に自然発生的に出来た各グループの中のリーダーと目されるクラブ員の気持を或る程度把握することにより、現在まで比較的無難に過ごしている。彼らは総じて時間中は練習に専心してくれるので、指導上これにまさるものはない。

ところで、参加者はそれぞれに立派な人格を有し、しかも職業を有しており、勤務の都合などもあって練習時間に遅れたりすることもあるが、この場合の扱い方も注意してする必要がある。私は、その都度「時間に遅れるようなことがあっても、わずか月二回のことですから、たとえ三〇分でも体育館へ来て一緒に汗を流しましょう」と言うことにしている。誰もが、いつでも、すぐに仲間にとけ込める雰囲気を大切にしたいのである。

かくして、月二回（隔週）の練習（クラブ員の中には、あまりにも間隔が開きすぎる不満を洩らす者もいるが、会場の都合もあって現況では致し方のないことではある）に入るのであるが、基本練習の段階では一も二も何ら変るものではないので、区別する実益はない。

まず、体育館に入ったらランニングと準備体操、ことに手・足・腰・アキレス腱等を重点的に行なう必要があり、また、参加意識を持たせる為に全員に掛け声を求めている。

いよいよ実技に移っていくのであるが、何はともあれラケットの握り方を知らしむる必要がある。これには、イースタン・グリップとウェスタン・グリップとがあるが、われわれの経験側から、イースタン・グリップと称する握り方が最適であろう。これは、打球の際に体の右側と左側とでは、それぞれ違った打面を使用する。これによってフォアハンド・ストロークとバックハンド・ストロークの別が出てくる。初心者には、このイースタン・グリップを使用してのストロークは苦手のようで、しばらくシャトルコックを打っているうちに思わず知らずウェスタン・グリップになっているというケースが目につく。これは特に女性に多く見られる傾向のようである。そこで、このグリップに慣れさせる為の方法として古シャトルをひとりで何回も連続して打ち上げさせ（ラケットの両打面を交互に使用したり、あるいは片面で数回打球したならば他の面で数回打球するようにさせ）たり、また、壁に向ってシャトルを打ち続けさせたりし、幾分慣れたところでストローク（打ち方）に入るのであるが、これには、

㈠　シャトルの飛び方

㈡　シャトルを打つ位置

によって分類することが出来、㈠には、クリア、スマッシュ、ドロップ、ドライブ、ネット・ショットが、㈡には、オーバーヘッド・ストローク、サイドハンド・ストローク、アンダーハンド・ストローク、ラウンド・ザ・ヘッド・ストロークがあり、これらは互いに関連しあっている。ということは、オーバー・ヘッド・ストロークからクリアを、スマッシュをそしてドロップを打ち出すことが出来るということである。

これらのうちのオーバーヘッド・ストロークでクリアを打つことは、バドミントンのストロークの中でも最も基礎的なものであるから、指導者のほとんどがこれから入っていくようでもあり、私もこの方法を採った。

なぜならば、このストロークのポイントをつかむことによってスマッシュを、また、ドロップを自在に打つことが出来る、一石二鳥ともなるからである。

ところが、実際に打ち始めると、まるでシャトルは飛んでくれない。彼らの最大の欠点は、肘を曲げ、シャトルを引きつけすぎ、そして体はネットに対して平行の状態で肩にばかり力の入ったストロークをするので、いわゆる「つまった」打球になりやすい点である。初心者の誰もが経験することなのであるが、殊に女性にこの傾向が著しい。要するに「シャトルをとらえる位置（ポイント）」と「全身の調和的使用」が把握出来ないために起こる状態であるので、私は気長に各人に対して少しずつ矯正し、また、素振りを続けさせた結果、シャトルが相手のバック、バウンダリー・ライン近くまで高く放物線を描くようなフライトが得られるようになったのであるが、さすがに一の連中は早くそれに到達出来たようである。こうして系統的に同じストロークにかかるスマッシュ、ドロップが打ち出されるようになると、彼らにとっても、また私自身にとっても、より大きな楽しみとなり、励みともなった。

（以下次号へ続く）

読者と編集者

投稿は、住所・氏名・年令・職業を明記のうえ、〒150東京都渋谷区神南一ノ一ノ一・岸記念体育会館内・日本バドミントン協会・バドミントン界編集部へ

■バド界を購読したいが……

バドミントン界を購読したいのですが、その手続きと料金支払い方法などをお知らせ下さい。

（福山市　又川智幸）

バドミントン界をとりたいのですが、どうすればいいのですか。

（高松市　高島　宏）

バドミントン界を毎月取りたいのですが、どのようにしたらよいのでしょうか。

（宮城県玉造郡　千葉俊之）

☆このご質問と同じ内容のものが毎日編集部あてに届いています。

本誌は、直接予約していただいた方に、毎月日本バドミントン協会からお送りしています。

予約をご希望の方は、編集部あてハガキでお申し込み下さい。折り返し申込用紙をお送りしますので、代金をそえてお近くの郵便局で手続きをして下さい。

予約購読料は、現在は一年間一五〇〇円ですが、近々値上げをさせていただく予定です。本文用紙をはじめ、各資材、諸経費の高騰のためですが、よろしくご了承下さい。

■指導をしてほしいが……

初心者からバドミントンを教えてくれるところを教えて下さい。有料でもいいのです。

（千葉県習志野市　伊藤　均）

都内で夜もしくは、土曜午後か、日曜に同好会かクラスがありましたら紹介して下さい。

（北区十条台　高岡見次）

☆現在、編集部で集計中ですので、もうしばらくお待ち下さい。

また、全国でクラブやバドミントン教室を開いているところをご存知の方は、どうぞ編集部までご連絡下さい。本誌誌上でご紹介します。

■写真を送ります

私は先日、第3回国際バドミントン競技大会を見て、ナマの迫力に驚かされたものです。

同封の写真はその時に撮ったものです。相沢さんがパートナーの竹中さんの足を心配しているようすがわかるかと思います。

それから、バドミントン界のバックナンバーを揃えたいのですが、価格などについて教えて下さい。よろしくお願いします。

写真はかなり撮ったのですが、まだ焼いていないので、今回はこれだけ送ります。

（千葉県柏市　田中淳一）

☆素晴しい写真をどうもありがとうございました。早速本号のグラビアをかざらせていただきました。まだ他にもありましたらぜひお送り下さい、お待ちしています。

本誌のバックナンバーは、今月号（第51号）の40ページをごらんのうえ、お申し込み下さるようお願いします。

■実戦に役だつ指導教室を

私は現在、高校一年生ですが、まず、山梨県で勝ってインターハイに出場し、上位にくい込みたいと思っています。

今は一年生で試合には出してもらえませんが、二年生になれば、団体戦には出られると思います。

バドミントン界で、私たち高校生に役に立つ指導のページをつくってもらえませんか。できれば現在第一線で活躍中の人に（たとえば小島一平選手とか銭谷選手、栂野尾選手）担当していただきたいのですが……。

（甲府市　大橋一夫）

☆大橋君と同じ要望が整理しきれないほど編集部に寄せられています。

今月号の30ページをごらん下さい。小島一平選手に「体当り実戦教室」の連載を始めていただきました。

基礎体力の養成から、実戦での戦略まで、順を追って迫力ある筆で書いていただきますのでぜひご愛読下さい。

また小島選手へのご質問や、ご希望なども編集部あてお寄せ下さい。

■一流選手の体験記を

最近バドミントン界は、記録的記事が主で、いわゆる読物的なものがないので寂しい感じがします。

もちろん記録をみて、そこからいろいろなものを学ぶことはできますが、読んで面白く、同時に生徒の指導にも使えるような記事もほしいのです。

それも、第一線の一流選手の体験記がよいと思います。やはり、自分で歩んできたものというのは、ただの理屈とは迫力がちがいますから。

（山形県米沢市　吉岡喜雄）

☆誌面構成については、いろいろと試行錯誤をくり返しているのが現状です。しかし、読んで面白いものも大切だと思います。

早ければ次号から、中山紀子さんの体験記を連載する予定です。ご期待下さい。

■インドネシア女子の状況は

次回のユーバー杯で、日本の最大の敵となりそうなインドネシア女子チームは現在どのようにしていますか。

☆インドネシア女子チームの近況については、いろいろな未確認情報が届いております。

たとえば、かつての女王ミナルニが復活して元気にプレーをしているとか、今年の全英選手権大会には、力を隠すために出場しない、といったことなど……。

いずれも未確認ですので何ともお伝えのしようがありません。申し訳ありません。

■ママさん大会について

2月23日のテレビで、スポーツニュースを見ていたところ、ママさんのバドミントン大会が開かれたと伝えていました。

この大会の正式名称と、もようを教えて下さい。

（大阪府　工藤恵美子）

☆この大会は「第一回関東家庭婦人バドミントン大会」で2月23、24日の両日、杉並区大宮前体育館で開かれました。

クラブ対抗の団体戦でしたが、詳細は次号でお伝えします。

協会通信

広島県協会

第5回理事長杯広島県バドミントン大会は、2月3日因島市において開催された。

男子ダブルス16組、男子シングルス30名、女子ダブルス8組、女子シングルス16名が参加して競技が行なわれた結果は次のとおりでした。

▽男子ダブルス
第1位＝矢野・出間
第2位＝柏木・杉之原
第3位＝山岡・安達
第4位＝前田・福谷

▽男子シングルス
第1位＝矢野
第2位＝田上
第3位＝福永
第4位＝杉之原

▽女子ダブルス
第1位＝広田・沖野
第2位＝松本・岩崎
第3位＝藤井・大坪
第4位＝宮地・三森

▽女子シングルス
第1位＝広田
第2位＝杉本
第3位＝宮地
第4位＝沖野

岡山県協会

昭和48年度岡山県総合選抜バドミントン大会（岡山大学招待）は、12月23日午前9時から岡山大学清水記念体育館で開かれた。

女子ダブルス19組、男子ダブルス20組、女子シングルス19名、男子シングルス28名が参加し、非常に盛会となったが、結果は次のとおりでした。

▽女子ダブルス
第1位＝原田・藤原（山陽）
第2位＝近藤・国定（〃）
第3位＝小寺・日原（〃）
同　＝木村・三田（山陽OG・クラレ）

▽男子ダブルス
第1位＝上野・芳上（三井造船）
第2位＝万代・松井（〃）
第3位＝高木・市原（岡大OB）
同　＝三宅・柳本（水工教・旭東中教）

▽女子シングルス
第1位＝近藤（山陽）
第2位＝原田（〃）
第3位＝三田（クラレ）
同　＝藤原（山陽）

▽男子シングルス
第1位＝岡（岡大）
第2位＝高木（岡大OB）
第3位＝浜中（岡大）
同　＝藤原（三井造船）

この結果、男子シングルスで五連覇をねらった三宅は、若い岡に屈し、ダブルスにおいても上野・芳上組が過去二連勝の三宅・柳本組にかわって優勝し、三年ぶり三回目の栄誉に輝いた。

続いて1月20日午前9時から行なわれた岡山県一般バドミントン新人選手権大会は、次のとおりの結果でした。

▽男子ダブルス
第1位＝角田・武（倉OB）
第2位＝松王・中村（協和）
第3位＝三宅・物部（住重）
同　＝小林・田原（岡大）

▽女子ダブルス
第1位＝樋・矢野（三井）
第2位＝小林・田原（看学）
第3位＝土岩・土井（岡大）
同　＝貝原・風早（看学）

▽男子シングルス
第1位＝梶田（岡大）
第2位＝浜中（岡大）
第3位＝名智（岡大）
同　＝北井（倉工OB）

▽女子シングルス
第1位＝風早（看学）
第2位＝蛭田（岡大）
第3位＝樋（三井）
同　＝藤原（岡大）

関東学生連盟

昭和48年度関東学生バドミントン選手権大会新人戦は、11月26、27、28、29、30、12月1、5、7、8日の9日間、駒沢・目黒・江戸川・板橋区体育館で行なわれた。

結果は次のとおりでした。

▽男子Aブロック団体戦
1位＝早稲田大学
2位＝中央大学
3位＝日本大学A
同　＝法政大学A

▽女子Aブロック団体戦
1位＝日本体育大学
2位＝東京女子体育大学A
3位＝日本女子体育大学A
同　＝　〃　B

▽男子Bブロック団体戦
1位＝日本体育大学
2位＝神奈川大学
3位＝一橋大学
同　＝東京大学A

▽女子Bブロック団体戦
1位＝大妻大学
2位＝共立女子大学A
3位＝明治学院大学
同　＝青山学院大学

▽男子Aブロックシングルス
1位＝土田（日大）、2位＝山本（中大）、3位＝松口（早大）
同＝竹林（日体大）

▽男子Aブロックダブルス
1位＝中井・辻（法大）、2位＝米山・原（法大）、3位＝大場・中原（中大）、同＝須藤・栗原（中大）

▽女子Aブロックシングルス
1位＝松田（日女体）、2位＝矢口（東女体）、3位＝渡辺（日女体）、同＝千葉（日女体）

▽女子Aブロックダブルス
1位＝千葉・松田（日女体）、2位＝市村・当摩（東女体）、3位＝大場・村田（日体大）、同＝東・長沢（東女体）

▽男子Bブロックシングルス
1位＝池田（学習院）、2位＝帰山（日体大）、3位＝中津（農工大）、同＝渡辺（千商大）

▽男子Bブロックダブルス
1位＝清谷・堀越（東経大）、2位＝市川・野中（東大）、3位＝帰山・佐藤（日体大）、同＝上原・高橋（神大）

▽女子Bブロックシングルス
1位＝太田（明学）、2位＝同崎（共立）、3位＝築後（国学院）、同＝川崎（日体大）

▽女子Bブロックダブルス
1位＝太田・杉山（明学）、2位＝三井・川崎（日体）、3位＝岡崎・杉山（共立）、同＝越原・綿野（桐朋大）

神奈川県協会

2月14日のバレンタインデーに、宮川秀樹選手（RS元町）はかねて婚約中の織裳富子さんとめでたくゴールインした。横浜伊勢山皇大神宮で行なわれた披露宴には、内藤安雄氏、杉田博ご夫妻、堺栄一氏、関一誠氏、渡辺直人氏、小島一平ご夫妻らバドミントン関係者も多数つめかけ、晴れの門出を祝福した。

マスコミのとらえたバドミントン

このページは、新聞や雑誌などに紹介されたバドミントンに関する記事を広く読者の皆様に紹介するものです。各マスコミ関係者、ユニバーサル通信社、そして読者の皆様から送られてきた切り抜きとコピーを中心にして構成していきたいと思いますので、読者の方々で記事をごらんになった人は、ぜひバドミントン界編集部あて切り抜きかコピーをお送り下さい。お待ちしております。

なんといってもマスコミの力は大きいものです。こうしていろいろな形で紹介されることでバドミントンがさらに普及発展していくと確信しています。このページをお借りしてマスコミの皆様にご協力をお願いいたします。

宛先＝〒150東京都渋谷区神南一ノ一ノ一・岸記念体育会館内・日本バドミントン協会・バドミントン界編集部マスコミ係

全日本で2連勝、湯木

「このタイトルだけは絶対に取りたいと思っていたそうで、玉の汗もふかず「優勝できてホッとした」と語る。二年連続三度目の日本一だが、「ことしは二度目の全英優勝をねらって果たせず、日中競技会も予想以下の成績。こんないやな気分で一年を終わりたくなかった。それだけに以前の優勝よりよほどうれしい」という。

バドミントンの名門、山陽学園中学（岡山）から同高校へ入学するころには「岡山に湯木あり」と将来を高く評価された。日女体大二年生（四十四年）で全英選手権へ初出場、優勝。同年の第五回ユーバー杯大会の日本代表選手に選ばれた。しかし「力に頼りすぎた」ため老練なミナルニ（インドネシア）に惨敗。これが〝頂門の一針〟となり、力に技をプラスして再出発した。

四十五年の全デンマーク選手権で左アキレスケンを切断、選手生命を危ぶまれたが闘志で克服。四十六年の全英選手権復に優勝してカムバック。同年の第六回ユーバー杯大会にエースとして活躍し、日本の二度目の防衛戦を成功させた。

性格は「プレー同様、男勝りで豪気なところがある半面、女性らしい神経の細やかなところがある」というのが高校時代から湯木を知る人の評。大学当時の恩師、今井先コーチは「いい事はすぐ取り入れる。体格、カン、素質に優れているうえ、素直で研究熱心なのだからどんどん強くなる」と成長は当然と見る。

また全日本の伊藤基記コーチも「大ざっぱなようで神経がすみずみまでいき渡っている。日常生活、プレーとも一流中の一流」とベタぼめ、プレーはこの性格を反映してフォア、バックのスマッシュと豪快な大技にヘアピン・ショットなどの小技を効果的に織り込む。

今後の目標は「玉子さん（中国のエース、陳玉娘の愛称）を破ること。あのスピード、パワーに打ち勝ちたい。来年の日中競技会までに速攻にみがきをかける」と大張り切り。

（山陽新聞　73・12・18）



〝本物〟の世界一へ
想像以上に強かった中国

三月、全英バドミントン選手権の女子ダブルスで、相沢マチ子・竹中悦子組（ヨネックス＝新潟青陵女子短大出）が二連勝を遂げた。相沢さんにとってみれば、昨年の世界女子選手権（ユーバー杯）直後に襲われた椎（つい）間板ヘルニアを克服しての優勝だけに、「印象深く、うれしかった」という。しかも全英選手権で勝つことは、世界を制することだといわれ、相沢さんたちは二年連続〝世界一〟の座についたわけである。押しも押されもせぬチャンピオン。

そのペアが、苦戦をした。九月、日中交流によって実現した「第一回日中バドミントン競技大会」でのことである。この大会で、日本は男女とも大敗。相沢・竹中組も、6戦して3勝3敗に終わった。

国際バドミントン連盟に加盟出来ずにいる中国は、公式戦の記録を持たない。しかし、最近のいろいろな大会での戦績から、〝無冠の帝王〟とか〝実力ナンバーワン〟という声も聞かれていた。そして、それは事実だった。

「やはり、というより、想像していた以上に強かったですね」と、実際に対戦してみての感想を相沢さんは語る。「うまくて、強い…」。腰の粘り、足の速さ。柔軟性と、そしてパワー。

「欠点を見せないというんでしょうか、こちらからいえば、ウイークポイントが見つけにくい相手なんですね」。海外遠征や大試合の経験豊かな相沢さんでさえ、「初めは面くらってしまって…」と述懐する。〝世界一〟のペアがあわてだし、中国選手はそこを突いてきた。

この交流試合は、中国バドミントンの基本に忠実なプレーと、独特の練習法とを日本に教えた。

「私たちの基礎体力づくりといえば、ランニングが主体だったんですが、中国の選手はウエートトレーニング、水泳、バスケットボールと、あらゆるトレーニングを用いているんですね」。大会後、日本バドミントン協会は「今まで以上のトレーニングの必要性」を選手に強調している。

十一月、相沢さんらトップクラスの選手は中国に渡り、北京、上海、広州を転戦した。ここでも日本の男子は負け越したが、

女子は11勝9敗で辛うじて勝ち越した。相沢・竹中組は、ダブルス4勝1敗だった。「思い切って、どしどし攻撃していこうと、二人で話し合ったんです。その作戦が成功しました」と笑う。しかし、4勝のうち2勝は、フルセットにもつれ込む接戦の末の勝利。楽勝ではなかった。

この転戦で、相沢さんはあることに気がついた。それは、転戦地のどこへ行っても、常に二、三人の強くて、しかも実力の接近した若手選手がいることだった。「正直いって、日本と中国の女子の力は五分と五分。ただ、向こうは選手層が厚いだけに将来は…」。最後の言葉を濁したが、相沢さんの言わんとすることが、よくわかった。

来年、三年に一度の「アジア大会」がテヘランで開かれる。これには、中国の参加はほぼ間違いないところ。公式戦初の日中激突が実現するだろう。もちろん、相沢さんも日本チームの主力として登場する。「世界一」に安住しがちだった気持ちは、もう捨てたつもりです。もっと上を見て、今度は〝本物〟の世界一を目指してがんばります。」

もうすぐ二十四歳。しかし、中国チームの出現で、〝結婚〟はずうっと先のことになった。

（新潟日報　73・12・16）

転進するバドミントン3選手

成功すれば選手養成も

メジャー競技に…

バドミントン界の第一人者・小島一平選手(二九)が十一月末をもって、七年間勤めたヨネヤマラケットを退社した。同僚の鈴木正造さん(二六)、小島選手を「兄貴」と敬慕する国体選手の宮川秀樹さん(二五)の三人で、バドミントン、テニスラケットの専門店を根岸線・石川町駅前に開いたためだ。資本金六百万円。テニス選手が自分の店を開く例は何度かあったが、バドミントンでは初の試みという。

「武士の商法に終わらないか」と尋ねると、「そりゃー、開店するまで不安は消えないけど勝算は十分。バドミントンをメジャー競技にのしあげる夢もあるし……」と意気軒昂。

小島、鈴木＝ヨネヤマラケット。宮川＝カワサキラケット。バドミントン用具の販売ではシェアを二分している専門メーカーだ。特に日本の代表的プレーヤーである小島選手を擁するヨネヤマは企業イメージが小島選手に象徴されて、このところ急激に販売量を伸ばしてきた。小島選手が模範試合などに招かれたあと、バドミントンのセールスを始めるとラケットは飛ぶように売れるという。ちなみに小島選手の職場は営業二課、別名バドミントン販売促進課だった。

ヨネヤマにとって〝ドル箱〟的存在の小島選手は海外遠征でも、アマチュア規定に触れない範囲で商魂を発揮し、社内でも抜群の営業成績をあげてきた。しかし、企業においては彼も一人のサラリーマン。彼の売り上げも社の収益の一部に過ぎず、優秀なセールスマンというだけだった。それでも大学を卒業して数年間は「好きなバドミントンをしながら仕事の出来る」環境に不満はなかったが、選手寿命の計算出来る年齢に近づくと、「会社に利用されているだけ」に思えて、独立への気持ちが強くなってきた。

競技人口は三百万

鈴木、宮川の両氏も以前から小売店を開く夢を持っていた。週休二日制に移行しつつある現代、レジャー、スポーツ産業は今後、増々発展する可能性を秘めている。

それにバドミントンの競技人口は三百万人。これほど膨大な需要があるのに、運動具店でバドミントンはすみに追いやられている。顧客に見合ったラケットを勧められる店員はいないし、技術相談に答えられる店員に至っては皆無だった。サービス精神の欠如。

「これじゃー、いつまでたってもバドミントンはマイナー競技。今までの選手生活で得た技術を生かしながら商売すれば、絶対にもうかるし、バドミントン界の発展にも尽くせる」。商売感覚とバドミントンにはせる夢がうまく溶け合った。ただ、企業として飛躍するためにはテニスを加えた方が合理的、とバドミントン、テニスの専門店になった。

果てなく広がる夢

三人が意気投合すると話はとんとん拍子に進んだ。アクシデントといえば、小島という〝ドル箱〟を失うヨネヤマが引き止め策を講じて、退社が十一月まで伸びたことぐらいだった。

三人が出し合った金は二百万ずつ計六百万。いずれも借金だ。日本のナンバーワンプレーヤー小島が店を開くということで、デパートをはじめ好条件を提示するスポンサーも現れたが、「自力でやりたい」といっさいの援助を断った。

「僕らは専門的な知識も持っているし、ヨネヤマ、カワサキなどメーカーにも顔が効く。だからアフターサービスも満点ですよ。商売が成功すればバドミントン専用コートも作って選手も育てたい」と夢が果てしなく広がる三人。小島のネームバリューを利用して「小島一平商店」などの店名も考えたというが、アマ規定に抵触する恐れがあるからと、平凡な「ラケットショップ元町」に決まった。

（神奈川新聞　73・12・4）

意欲満々、たくましく

「ワァー、こまるわ」と、ちょっぴりはにかんだ表情は、まだ学生のフィーリングそのもの。

しかし、がっちりとした体格には、あどけない顔つきとは似つかわないスポーツで鍛えたたくましさがあった。さすが県女子バドミントン界の現役ナンバ

ーワン。

堀川さんがバドミントンを始めたのは中学一年（当時の新潟女子工芸高校併設中学校）の夏。動機は「やっぱり、伝統へのあこがれだったでしょうか」という。「トレーニングは、高校生とまったく同じ。中学生だからと、容赦はないんです。ランニングについていくのが精いっぱいでした」と、ランニングに明け暮れた当時をなつかしそうに語る。

全国レベルの大会に初デビューしたのは青陵高校一年のとき。「たまたま、先輩の相沢さんが盲腸でインターハイに出場できなくなって、私がピンチヒッターとして出たんです。準決勝で惜敗し、三位に終わりましたが相沢さんの穴埋めを私なりに果たしたということで、とっても自信がつきました」

× × ×

高校卒業後日体大へ進む。その年、夢にも考えていなかった先輩の相沢・竹中組を破って、国際学生バドミントン選手権に出場。初めて外国遠征（マニラ）した。

「相沢さんペアを破ったのはこのときが最初で、最後になるでしょうね。マニラ遠征は学生時代の一番いい思い出です」

大学時代には各種大会に出場して輝かしい戦績をおさめた。最高の戦績は、四年生のとき、オールジャパン（全日本総合バドミントン選手権）シングルス三位に入賞したこと。さらに、社会人として、教壇に立ってからは、一昨年、全国教職員大会で優勝した。

× × ×

相沢・竹中の名コンビをはじめ、本県バドミントン界は全国でもトップクラスの名プレーヤーを何人か生み出している。しかし、名コンビが中央に去ってからは、ここ一、二年、もう一つパッとしない低迷状態を続けている県バドミントン界である。それだけに堀川さんの責任は重大。「相沢さん、竹中さんに続く選手を養成することが目下の急務だと思います。」と語気を強めた。

× × ×

堀川さん自身にとって、当面の最大の悩みはパートナーがいないこと。「女としては、ごく常識的には適齢期なんでしょうが、それどころか、目下の最大関心事はパートナー探しです。二十五歳を過ぎたら、のんびり考えてみようと思います」と、にっこり笑った。バドミントンが、すっかり生活の一部になっている堀川さんの青春である。

（新潟日報　74・1・19）

インフレ…運動用具にも 頭痛めるスポーツマン

〝用具が高くて、運動も満足に出来ない〟―異常な物価高騰は、スポーツ用品にまで波及、生徒、学生をはじめ、一般愛好者を悩ませている。

〝県民総スポーツ化〟を目指し、各体育施設はスポーツ教室が盛ん。卓球、バレーボール、バドミントンと手軽に出来るものばかり。ところが昨年末から相次いで用具の値上がり。特にバドミントンのシャトル（羽根）は消耗度が激しく、経費はかさむ一方。

千九百円ものが一挙に二千七百円（一ダース）になったのをはじめ、ラケットは五百―八百円、シューズは平均五百円のアップ。現在主流を占めるガチョウなどの水鳥製シャトルは飛行に安定性があるが、十分間も打ち合うと懐れてしまう。

例えば長崎商業。年間予算が七万九千円。他校に比べると恵まれている方。ところがこの値上がりで毎日の練習にも事欠く始末。またラケット、シューズは個人負担のため、当然父兄負担は増加の一途。ある部員はこうした理由で、競技を断念、退部した。また他校でも負担額増加を理由に退部する生徒が増えつつある。「スポーツは健全な心身をつくるもの。これではプルジョワしか出来なくなってしまう」と関係者は嘆く。

一方他競技団体でも同事情。少ない予算で高い用具を備えなくてはならず、台所は火の車。なかには指導者が〝手弁当〟で当たるところもあり、「用具の価格統制は出来ないものか」とスッカリ弱り切っている。

（長崎新聞　74・1・19）

〝他流試合〟にハッスル

毎週金曜日の午前十時になると市の中央公民館にはトレーニングシャツにタイツ姿、ラケット片手のお母さんが自転車で次々とやって来る。市内の主婦たちでつくっている〝ママさんバドミントンクラブ〟のメンバーだ。

去る四十四年、うぶ声をあげたもので、当時会員は三十人。市体協が、バドミントン競技の普及と、主婦の体力づくりを目指して行ったバドミントン教室が直接のきっかけとなった。

一カ月の講習で魅力に取りつかれた三森保子さん（四〇）らが「指導してくれる人がいなくても、とにかく羽根を打ち続けたい」とママさんバドミントンクラブをつくった。

以来五年、転勤者や「年齢（とし）だから」とやめて行く婦人も多く、最初のメンバーは三森さんを入れて二、三人になってしまったが、一方では入会する主婦もいて現在会員は二十八人。平均年齢三十四、五歳、最高四十六歳。「最初はハネつきぐらいの軽い気持で入って来る人が多いようですが、やってみるとなかなかきついスポーツです」というように、練習する主婦たちはたちまち汗ダク。夕食の献立ても、受験勉強中のわが子のことも忘れて一心に羽根を追いかける。

コーチも市職員の山中国夫さん（三四）が昨年四月から買って出てくれた。また昨年七月、市勤労青少年ホームのバドミントンクラブと初の親善試合をしたが

スポーツは若者独占じゃない
資格は35歳以上の男子

「強くなりどしどし他流試合をやりたい」と練習にも熱が入る。今後は、このクラブが単に体力づくりばかりでなく「お料理など教養的なものも身につけられるサークルに育てたい」と、胸をふくらませている。

（下野新聞　74・2・4）

資格は三十五歳以上の男子、という〝若さ制限〟つきのスポーツクラブが福岡市に誕生した。市民体育館のスポーツ教室から芽ばえた壮年バドミントン同好会。会員のほとんどが「運動するのは学校時代以来初めて」の人たちの集まりで平均年齢は「四十歳をだいぶ過ぎた」ところ。五十八歳の会員もいる。体力の衰えが気になりながらも機会がつかめず気ばかりあせるという人は少なくない。そんな人たちに、壮年バドミントン同好会の発足はよい刺激になることだろう。

福岡市博多区東公園の市民体育館は市民スポーツ教室の一つに、昨年、三十五歳以上の男子を対象にバドミントン教室を開いた。参加者四十五人。二十代のお嬢さんのコーチで落後者も出ず、週一回十五週の課程をこのほど終了した。教室が終わりに近づくころ、参加者たちから「このまま解散するのは惜しい」の声。自分たちの手で同好会をつくることになった。

教室が終わったあとは、自分の住む地域で仲間づくりをして続ける人もいるので、同好会には三十人が加入。さる三日の日曜日、市民体育館で同好会としての初練習を楽しんだ。会員の職業は、公務員ありサラリーマンありと多様だが、スポーツを通じて知り合い、お互い壮年という仲間意識も作用してか和気あいあい。家族連れで練習に来れるふん囲気が出来上がっている。

会員は「今まで、なにか運動をしたいと思っていた」人たち。「学生時代に弓道をやって以来のブランクで、なにか運動をしたかった。市民体育館がバドミントン教室を開くのを知って申し込んだので。壮年対象といっても、三十代の人が多かろうとちょっと心配でしたが五十過ぎの人も多かったので安心しました」という早川博信さんは四十八歳。化学薬品会社の研究者。

「三十五歳を過ぎた人といえばすわる仕事が多い。みんな運動をしたがっています。機会があればしようと思っているんですよ」という。

同好会の世話役をつとめる佐藤誠さんは三十七歳の自動車セールスマン。「今まで運動しようと思っても、機会と施設がありませんでした。体育館がその両方をつくってくれました。日常生活に目的が出来ました」。

いま各地でさまざまなスポーツクラブやチームが出来ているが、ほとんどが若者中心。中年以上の参加はちょっと気遅れする。そんな中での壮年バドミントン同好会の誕生は世の中年族を大いに発奮させる効果を発揮しそう。

ところで〝壮年バドミントン同好会〟は仮称で正式な名前はまだ決まっていない。「LCクラブ」にしようか、という声もある。「ラスト・チャンス」の頭文字だという。どこまでも楽しい同好会である。

（フクニチ　74・2・7）

一社で一手に引き受け
注文殺到、大忙し

○…大空に白い羽根が舞う。元気な若ものたちの声がはずむ―。

もうすぐバドミントンのシーズンだ。

城端町のユニバース工業（米沢正代表）では、選手用ラケットを専門にいま残業につぐ残業で製作に追われている。

国内産のトネリコ材不足で、カナダから輸入したホワイトアッシュ材とブナ、サクラを合板し、できるだけ軽くて強いラケットの生産に努めている―という。

同社で生産するものは三千円から四千五百円の高級品が多く、ライト級百三十㌘（ガットを張らない時の重さ）という、ごく軽いものばかり。

○…生産者の数が少なくなったので注文が殺到し、このところネコの手もかりたい忙しさとうれしい悲鳴をあげている。

（北日本新聞　74・2・7）



■最近、本誌のバックナンバーを希望される方が多いため、協会資料用の一部をご希望の方に頒布いたします。ご希望の方は、代金と送料を現金書留で、〒150東京都渋谷区神南一ノ一ノ一岸記念体育会館内・日本バドミントン協会・バド界編集部へお申し込み下さい。送料は5号以降は、1冊＝20円、2冊＝32円、3冊＝44円、4冊＝56円、5冊＝68円、6冊＝80円、7冊～10冊＝170円、11冊～13冊＝200円、14冊～19冊＝300円、20冊以上＝350円。1号から4号までの号が1冊でも含まれる場合は（第3種郵便物認可時期の問題があるため）、1冊＝70円、2冊＝115円、3冊＝175円、4冊～13冊＝250円、14冊～19冊＝300円、20冊以上＝350円。端数の代金は切手代用でけっこうです。

定価は、1号～21号＝100円、22・23合併号＝200円、24号＝100円、25号～49号＝130円。

■バドミントン界バックナンバー

創刊号＝ユーバー杯初防衛
2号＝国際学生選手権ほか
3号＝全国に広がる底辺活動
4号＝国体詳報ほか
5号＝女王の座めざして
6号＝全日本女C・トーナメント
7号＝トマス杯アジア地区決勝
8号＝トマス杯決勝総まくり
9号＝海外遠征特集
10号＝社会人選手権総まくり
11号＝インターハイ特集
12号＝東日本学生選手権大会
13号＝インターハイ総特集
14号＝教職員選手権ほか
15号＝ケガに強くなろう
16号＝国体ワイド特集
17号＝目で見る技術講座
18号＝全日本総合選手権詳報
19号＝アジア大会総まくり
20号＝社会人・学生対抗ほか
21号＝底辺拡大を
22号＝
23号＝ 小島はなぜハルトノに勝てない（合併号）
24号＝中国との交流問題
25号＝インターハイ特集
26号＝青春の映像・相沢マチ子
27号＝次代のトップをさぐる
28号＝女子学生界の展望
29号＝栂野尾初優勝
30号＝第1回国際女子競技会
31号＝全英で単複制覇
32号＝ユーバー杯代表そろう
33号＝ユ杯を守れ
34号＝宿願のユ杯3連覇
35号＝連続写真（ユ杯にみる）
36号＝インターハイ特集
37号＝ト杯地区決勝で敗る
38号＝中国バドミントンの実力
39号＝国体詳報
40号＝小島復活（全日本総合）
41号＝第2回国際女子競技会
42号＝相沢・竹中全英2連勝
43号＝連続写真特集
44号＝近づく中国との対決
45号＝底辺を広げ支える人々
46号＝続・中国の実力と周辺
47号＝インハイ総特集
48号＝第1回日中大会詳報
49号＝国体・全日本総合特集
50号＝中国選手に学ぶ

品切れ

■お断わり＝42号から45号までの4冊は残念ながら品切れとなっております。

なお、第1回日中大会および第3回国際競技大会プログラムの残部が少しあります。ご希望の方は、送料とも日中大会は200円、第3回国際は100円をそえてお申し込み下さい。（あて先はバド界と同じでけっこうです）

編集室から

○…第51号をお届けいたします。今月号は、先きの第三回国際バドミントン競技大会の特集でまとめました。

試合をごらんになった方は、ハンセン、デルフスの豪快で愉快なプレーぶり、ビューセコムをはじめとする女子選手の華やかさを思い出して下さい。

残念ながら試合をごらんになれなかった方は、誌上で楽しんで下さい。

○…先月号で新しいページを二つ作りましたところ、早速読者の方々、各協会の方々から沢山のお便りをいただきました。

編集部一同感激しております。

さらに、今月号では、読者の方から素晴しい写真までお送りいただきましたので、グラフページを飾ることができました。

○…そして、今月号からも新しいページをつくりました。

読者の要望が非常に強く、なかなか実現しなかった小島一平選手の「体当り実戦教室」が始まりました。

いままでにない、迫力ある筆致を十分お楽しみ下さい。何といっても自分で体験し、実践してきたことですから、迫力がちがうと、編集部では感心しております。

○…また、マスコミ界のご協力で、「マスコミのとらえたバドミントン」を載せてみました。バドミントンの普及発展にマスコミ界の力がなくては実現しません。

○…そして、〆切り間ぎわになって、全英選手権大会派遣選手が決定いたしました。男子3名、女子4名ですが、大いに頑張ってほしいものです。

日程は、3月8日出発、11日～13日＝デンマークオープン選手権、15日～16日＝グラスゴー招待競技大会、20日～23日＝全英選手権、29日帰国。

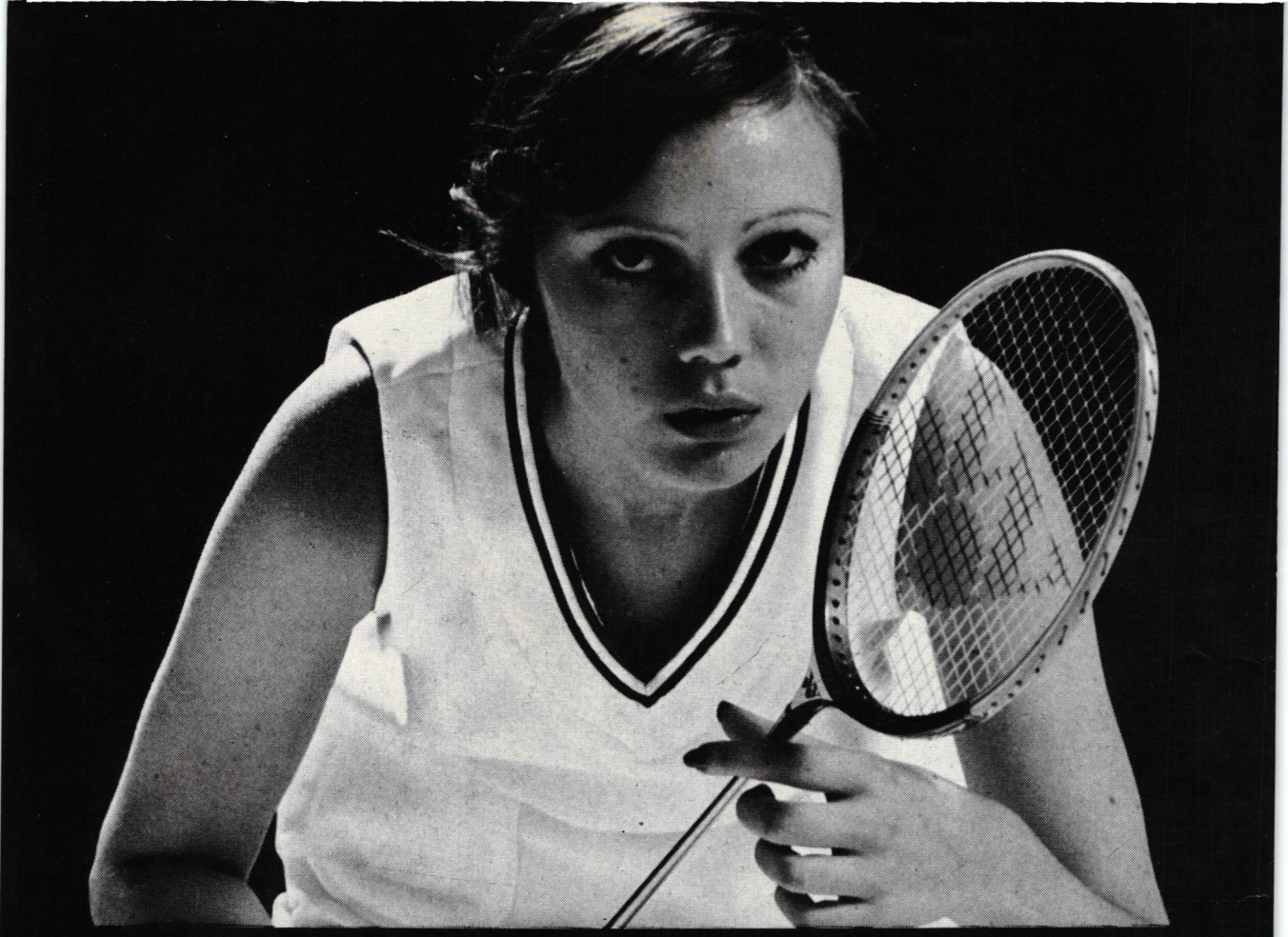
○…**定価改訂のお願い**

最後に、甚だ申し訳ないお知らせをしなければなりません。

本誌は第25号以来、130円で通してまいりましたが、資材、とくに本文用紙が二倍～三倍の値上りを続けており、もうこのまま下がることは考えられない状態になっています。読者の皆様にはご迷惑をしないように努力を重ねてまいりましたが、ついに定価を値上げしなければ、本誌の発行は不可能になってしまいました。次号で詳しくお知らせいたしますが、一部定価240円、年間二四〇〇円に改訂する予定です。よろしくご了解下さい。（S）

【バドミントン界】第51号
昭和48年12月25日 印刷
昭和49年1月1日 発行
編集兼発行人 秦 浩
発行所 東京都渋谷区神南一の一の一 岸記念体育館内 日本バドミントン協会
電話 四六七・三一一一（内線）二五一 四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所 東京都豊島区南大塚二一二九 明宏印刷株式会社
定価 一部 百三十円

©無断転載を禁ず



国籍は世界。ヨネックス。

ヨネヤマが
社名変更しました。

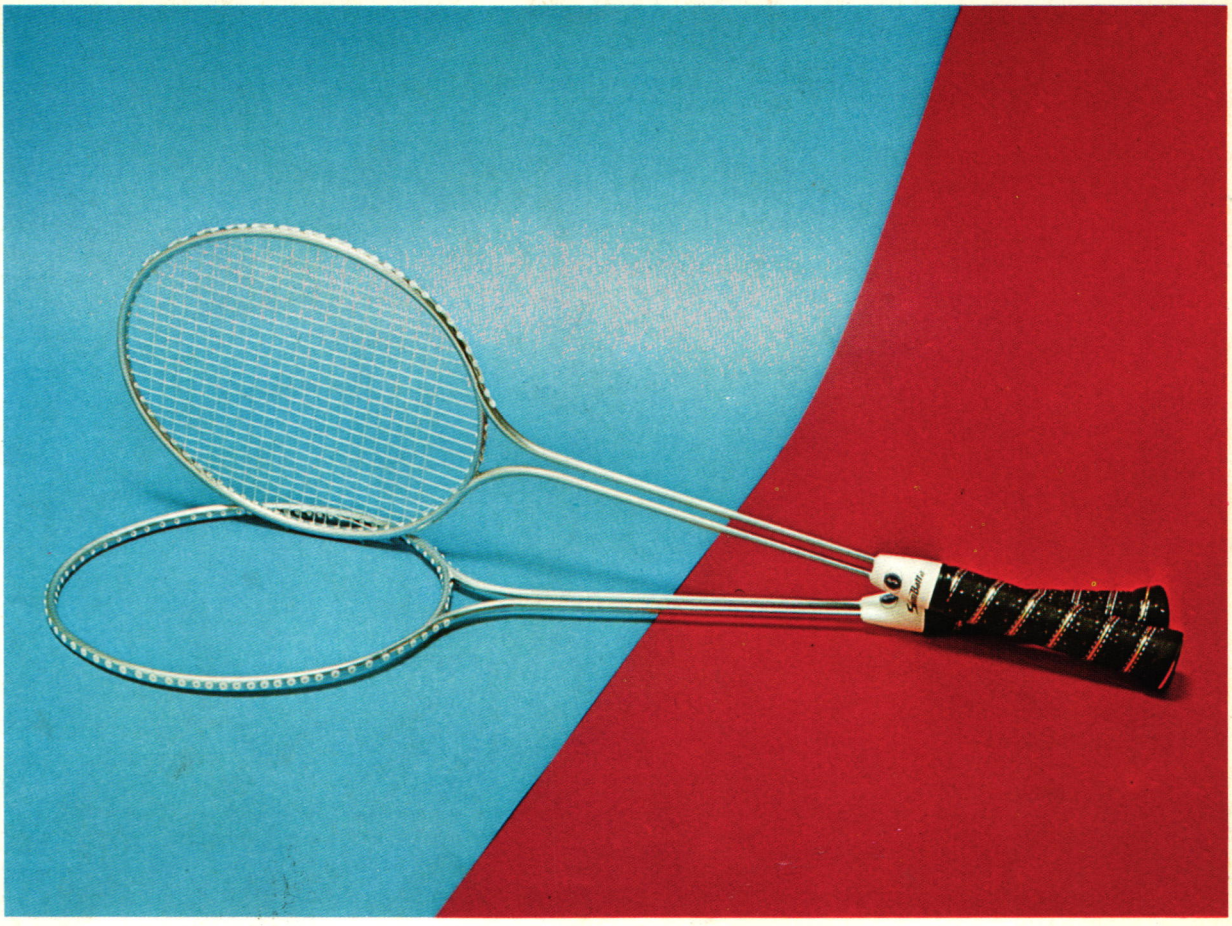
世界の一流プレイヤーに使われ、世界のコートで熱い視線を浴びてきたヨネヤマが、名前を変えました。いま、こころも新たにヨネックス。世界のレベルを決めるブランドに、ふさわしい名前です。グローバルな響きです。バドミントンを科学の目でとらえるヨネヤマの、力強い変身。ヨネックス。この5文字が、ことばの違いを越え、国籍を越えて、ひとびとの心をひとつに結びます。すでにもう、世界のひとたちはかってのヨネヤマをヨネックスと、そう呼びはじめました。さあ、あなたも。

No.9000

ハイステンレス
￥4,800(フレーム・ケース付)
￥5,400(ヨネックスシープ張上・ケース付)

YONEX

月刊「バドミントン界」第51号
昭和四十九年一月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一 日本バドミントン協会 電話(461)3471



ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。
◇フレームのみ（ケース付）￥ 5,000

SunBatta TOKYO
サンバタ